

計算社会科学研究センター  
2022 年度活動報告書

(2022 年 4 月～2023 年 3 月)



**CCSS**  
Center for Computational Social Science

# 目 次

I. 計算社会科学研究センターの概要	3
II. 組織の編成	4
1. 構成と人員	
2. 研究部門と支援部門	
III. 最近における特記事項	6
1. Journal of Computational Social Science について	6
1.1 ジャーナル刊行	
1.2 Journal Citation Reports 2023 年版 JCSS の評価	
2. 計算社会科学の人材育成	8
2.1 CCSS International Workshop on Computational Social Science を開催	
2.2 CCSS School on Computational Social Science: Agent-Based Models (ABM) in Economics を開催	
2.3 計算社会科学研究センター運営アドバイザー称号の制定	
3. 大型科研費・外部資金獲得実績	9
4. 若手・女性・外国人研究者の育成	10
5. データベースの構築と公開	11
IV. リサーチフェロー	12
V. 研究実績と活動状況	13
1. シミュレーション部門	
上東 貴志 (部門長)	14
北野 重人	16
飯塚 敦	18
大石 哲	20
貝原 俊也	22
横川 三津夫	28
佐野 英樹	29
2. データ分析部門	
西谷 公孝 (部門長)	30
中川 丈久	32
栗木 契	34
小林 照義	37
柴本 昌彦	39
谷口 隆晴	41
西村 和雄	44
加藤 諒	48

Ivan ROMIC .....	49
陳 訓泉 .....	50
Shady SALAMA .....	52

3. データベース部門

高槻 泰郎（部門長） .....	53
島村 靖治 .....	56
小代 薫 .....	58
田中 克幸 .....	60
正田 ヴェラ パオラ レイエス .....	61

VI. 今後の展望と方針 .....	62
--------------------	----

## I. 計算社会科学研究センターの概要

計算社会科学研究センター（CCSS：Center for Computational Social Science）は、社会科学、計算科学、データサイエンスの融合領域である計算社会科学における共同研究を推進し、計算科学とデータサイエンスに基づいた新しい社会科学としての計算社会科学の確立と体系化を目指し、世界的に同領域を牽引する国際研究拠点を形成することである。

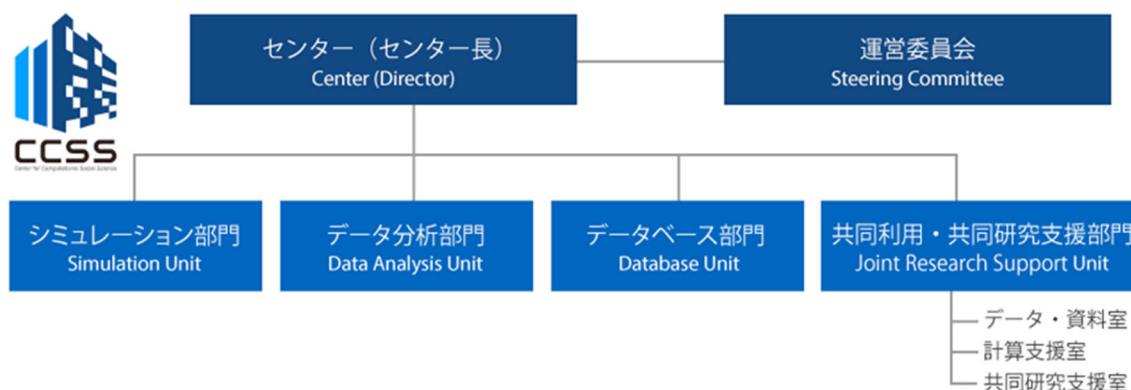
本センターは、2017年3月15日に経済経営研究所の部局内組織として創設され、2018年4月1日に全学基幹研究推進組織となる。

計算社会科学研究センターは、前述の目的を達成するために、シミュレーション部門、データ分析部門、データベース部門、共同利用・共同研究支援部門（2021年4月設置）で構成され、計算社会科学における先端研究、研究を促進するための技術開発、研究を促進するためのデータベース作成、その他学術研究の推進と普及のために必要な研究等に取り組んでいる。

計算社会科学は、近年急速に発展しているビッグデータや計算技術に基づく「新しい社会科学」である。オンライン上で取得可能なビッグデータ、コンピュータ・シミュレーション、ネットワーク分析を中心とした高度な計算技術を用いた社会現象の定量的分析であり、近年急速に発展している。本センターは、計算社会科学に特化した唯一の研究センターであり、他大学にない独自性の高いものである。

## II. 組織の編成

### 1. 構成と人員



### 運営委員 (2023年3月31日現在)

氏名	職位	部門	所属
上東 貴志	センター長 教授	シミュレーション部門	計算社会科学研究所
西谷 公孝	副センター長 教授	データ分析部門	経済経営研究所
高槻 泰郎	副センター長 教授	データベース部門	経済経営研究所
柴本 昌彦	教授	データ分析部門	計算社会科学研究所
中川 丈久	教授	データ分析部門	法学研究科
小林 照義	教授	データ分析部門	経済学研究科
栗木 契	教授	データ分析部門	経営学研究科
田中 成典	教授		システム情報学研究科
島村 靖治	教授	データベース部門	国際協力研究科
大石 哲	教授	シミュレーション部門	都市安全研究センター

### 2. 研究部門と支援部門 (2022年4月1日現在)

#### シミュレーション部門

社会経済モデルのシミュレーションに基づく計算社会科学領域の研究を行う。

職位	氏名		学域
教授	上東 貴志	Takashi KAMIHIGASHI	先端経済経営研究学域
教授	北野 重人	Shigeto KITANO	先端経済経営研究学域
教授	飯塚 敦	Atsushi IIZUKA	工学域
教授	大石 哲	Satoru OISHI	工学域
教授	貝原 俊也	Toshiya KAIHARA	システム情報学域
教授	横川 三津夫	Mitsuo YOKOKAWA	システム情報学域
教授	佐野 英樹	Hideki SANO	システム情報学域

## データ分析部門

大規模データに基づく計算社会科学領域の研究を行う。

職 位	氏 名		学 域
教授	西谷 公孝	Kimitaka NISHITANI	先端経済経営研究学域
教授	中川 丈久	Takehisa NAKAGAWA	法学域
教授	栗木 契	Kei KURUKI	経営学域
教授	柴本 昌彦	Masahiko SHIBAMOTO	先端経済経営研究学域
教授	谷口 隆晴	Takaharu YAGUCHI	システム情報学域
特命教授	西村 和雄	Kazuo NISHIMURA	先端経済経営研究学域
准教授	加藤 諒	Ryo KATO	先端経済経営研究学域
特命助教	ロミチ, イヴァン	Ivan ROMIC	先端経済経営研究学域
特命助教	陳 訓泉	Xunquan CHEN	先端経済経営研究学域
助手	サラマ, シャディ	Shady SALAMA	先端経済経営研究学域
学術研究員	佐々木 洋介	Yosuke SASAKI	先端経済経営研究学域

## データベース部門

計算社会科学に関わるデータベースの構築を行う。

職 位	氏 名		学 域
教授	島村 靖治	Yasuharu SHIMAMURA	国際協力学域
准教授	高槻 泰郎	Yasuo TAKATSUKI	先端経済経営研究学域
特命講師	小代 薫	Kaoru KOSHIRO	先端経済経営研究学域
特命講師	田中 克幸	Katsuyuki TANAKA	先端経済経営研究学域
助教	正田 ヴェラ パオラ レイエス	Vera Paola Reyes SHODA	先端経済経営研究学域

## 共同利用・共同研究支援部門

職 位	氏 名		学 域
教授	西谷 公孝	Kimitaka NISHITANI	データ資料室
講師	國本 光正	Terumasa KUNIMOTO	データ資料室
教授	濱口 伸明	Nobuaki HAMAGUCHI	計算支援室
助教	内田 並子	Namiko UCHIDA	計算支援室
助手	衛藤 あい	Ai ETO	計算支援室
教授	岩佐 和道	Kazumichi IWASA	共同研究支援室
教授	柴本 昌彦	Masahiko SHIBAMOTO	共同研究支援室
助教	中田 未央	Mio NAKATA	共同研究支援室
助手	下大藪 充重	Michie SHITAOZONO	共同研究支援室

### Ⅲ. 最近における特記事項

#### 1. Journal of Computational Social Science について

##### 1.1. ジャーナル刊行

平成 30 (2018) 年 計算社会科学の国際的専門学術誌 『Journal of Computational Social Science』を創刊した。

神戸大学計算社会科学センター (CCSS: Center for Computational Social Science。以下「CCSS」という。) と経済経営研究所の協力の下で、平成 30 (2018) 年 1 月にこの領域において世界初となる専門学術誌 『Journal of Computational Social Science』 (Springer 社 以下「JCSS」という。) が創刊され、上東貴志計算社会科学センター長が初代編集委員長に就任した。

計算社会科学に特化した世界初の査読付学術雑誌として、世界中から多数の論文が投稿されており、創刊から 4 年間で 10 冊発行、140 本以上の論文を掲載している。計算社会科学の発表の場として既に国際的に広く認識されており、優れた研究成果を世界へ発信する場となっている。JCSS の編集委員は、世界的に活躍する 28 名の研究者からなり、その所属機関の位置する国は世界 13 か国に及ぶ。また過去 3 年間の掲載論文著者の所属機関国は 37 か国となり JCSS が世界的に広く開かれた国際学術雑誌であるだけでなく、国際的需要が極めて高いことも表している。

2020 年 JCSS は、Clarivate Analytics 社 (以下「CA 社」という) が 2015 年から新たなデータベースとして導入した Emerging Sources Citation Index(ESCI)に収録された。ESCI は、ジャーナルとして国際的な基準に達しており、かつ今後、質の向上が見込まれる学際的なジャーナルを集めたデータベースであり、2018 年 1 月の創刊間もない JCSS が収録されたことは意義深い。

またクラリベイト社が発表した Journal Citation Reports 2023 年版で、Journal Impact Factor3.2 を獲得している。引き続き、JCSS の Social Science Citation Index (SSCI) への掲載を目指している。



The screenshot shows the journal's website with the following content:

- Journal of Computational Social Science logo and title.
- Navigation links: Editorial board, Aims & scope, Journal updates.
- Text: First issue published in January 2018.
- Description: The Journal of Computational Social Science (JCSS) is an interdisciplinary peer-reviewed journal that ties together groundbreaking research across the strata of the social sciences (sociology, economics, political science, psychology, linguistics, and other disciplines), physics, biology, management science, computer science, and data science. In addition to topics conventionally associated with computational social science, the journal invites contributions that analyze social/ economic phenomena or structures using computational approaches related to, but not restricted to, the following methods or fields: — [show all](#)
- Editor-in-Chief: Takashi Kamihigashi
- Publishing model: Hybrid (Transformative Journal). [How to publish with us, including Open Access](#)
- Key Metrics Table:

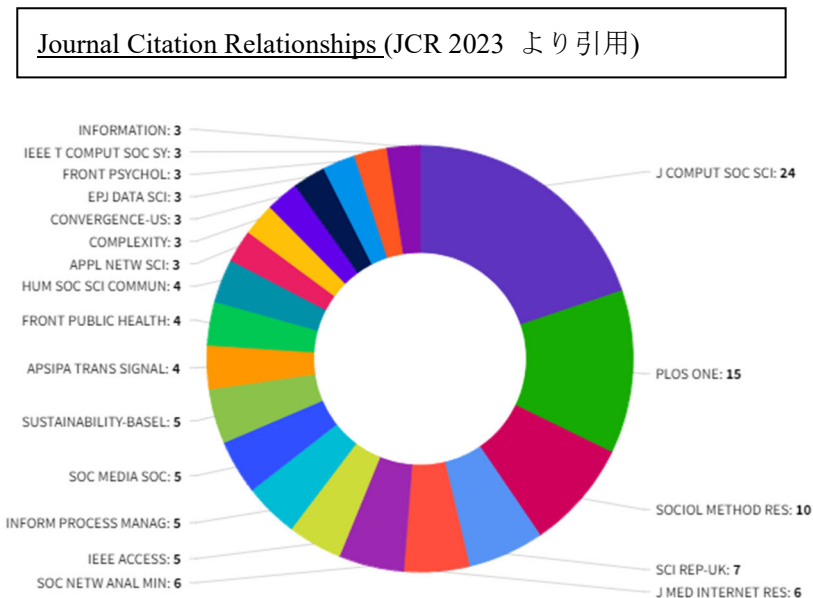
3.2 (2022) Impact factor	12 days Submission to first decision (Median)	270,321 (2022) Downloads
2.9 (2022) Five year impact factor		

## 1.2. Journal Citation Reports 2023 年版 JCSS の評価

クラリベイト社の Journal Citation Reports 2023 年版（以下、JCR2023）が 2023 年 6 月に公開されたところによると、JCSS は 254 ある研究カテゴリで、「SOCIAL SCIENCES, MATHEMATICAL METHODS」に分類されている。同カテゴリ内には、JCSS を含め合計 65 誌のジャーナルが収録されている。Journal Citation Reports 2023 年版のジャーナル指標として、Journal Citation Indicator (JCI) があり、JCI は過去 3 年間 (2020 年, 2021 年, 2022 年) の引用の平均インパクト (Category Normalized Citation Impact (CNCI)) を表している。JCSS は、この JCI の指標で「1.09」という数値を獲得し、2021 年に続き 2022 年でも、65 誌中、14 位にランク付けされ、上位 25%ジャーナル (Q1)として評価されている。

また、同 JCR2023 では、Journal Impact Factor (JIF) が付与された。JIF は、クラリベイト社 Web of Science Core Collection に索引付けされたデータから算出されるジャーナルレベルの指標であり、JCSS は 2022 Journal Impact Factor として、「3.2」を獲得した。

右記のグラフは、過去 3 年間で JCSS が引用されたジャーナルとその引用数を表したものである。



## Journal Impact Factor の計算方法

### Calculation

Journal Impact Factor™ is calculated using the following metrics:

$$\frac{\text{Citations in 2022 to items published in 2020 (148) + 2021 (143)}}{\text{Number of citable items in 2020 (20) + 2021 (71)}} = \frac{291}{91} = 3.2$$

(Journal Citation Reports 2023 より引用)



## 2. 計算社会科学の人材育成

計算社会科学センターでは、今後の計算社会科学を牽引する人材を養成するため、また、世界的に活躍する計算社会科学の研究者と若手研究者との交流や議論を交わす場を設けることを目的とし、国際カンファレンスの開催やカンファレンスの内容を動画で作成・公開している。

### 2.1. CCSS International Workshop on Computational Social Science を開催

令和 4 (2022) 年 11 月 30 日にハイブリッドで開催し、CCSS の柴本昌彦教授がモデレーターを務めた。CCSS リサーチフェロー兼外国人研究者である Corrado Di Guilmi 氏 (豪・シドニー工科大学)、CCSS の若手研究者 4 名 を含む 6 名が報告を行なった。



#### 開催報告

計算社会科学センターは、2022年11月30日(水)に、ハイブリッド開催にて「CCSS International Workshop on Computational Social Science」を開催しました。当センターの柴本昌彦教授の司会を担い、今回の国際シンポジウム開始に先立ち、主催である計算社会科学センターの上巻浩志センター長が開会のあいさつを行いました。挨拶の中で、シンポジウム報告者についての紹介がなされ、各報告者がどのように当センターの研究に関わっているかについて説明がありました。



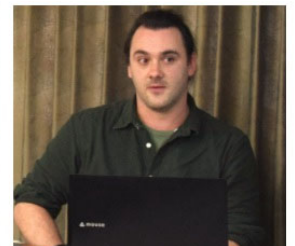
上巻浩志センター長

報告は、当センターの研究の一部を担う6名の教員により行われました。第一報告は、当センターのリサーチフェロー・招へい外国人研究者で、2022年7月に開催した「CCSS School on Computational Social Science」でも報告を行った、Corrado Di Guilmi氏 (豪・シドニー工科大学) による報告が先スタートしました。その後、当センターのIvan Romić特命助教、正田ヴェラ・バサラ、レイニス助教、経済経営研究所のカシフ・アハメド助手、当センターの藤原泰希特命助教、シマディ・サマ助手が報告を行いました。

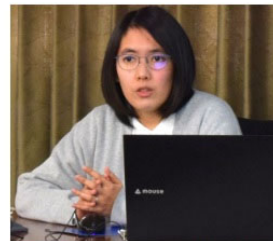
初めてのハイブリッド開催でしたが、研究機関所属の研究者だけでなく、学卒や民間企業からの経済参加者もありました。会場では、活発な質疑応答・意見交換が行われ、盛況のうちに終了しました。



Corrado Di Guilmi 氏 (豪・シドニー工科大学)



Ivan Romić 特命助教 (計算社会科学センター)



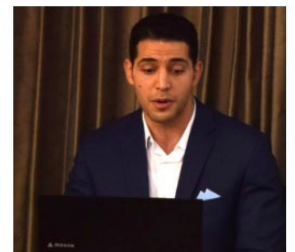
正田ヴェラ・バサラ (経済経営研究所)



Kasim Ahmed 助手 (神戸大学経済学研究所)



Shady Salama 特命助教 (計算社会科学センター)



Shady Salama 特命助教 (計算社会科学センター)

CCSS ホームページより抜粋：[http://ccss.kobe-u.ac.jp/event/seminar\\_all/2022/202211301300.html](http://ccss.kobe-u.ac.jp/event/seminar_all/2022/202211301300.html)

### 2.2. CCSS School on Computational Social Science: Agent-Based Models (ABM) in Economics を開催

令和 5 (2023) 年 1 月 20 日に開催し、当センターの Shady SALAMA 助手および Ivan ROMIC 特命助教がモデレーターを務めた。経済学におけるエージェント・ベース・モデルに焦点を当て、国内外からこの分野で著名な研究者 7 名が講演を行い、活発な意見交換が行われた。講演動画は、CCSS YouTube チャンネルで公開している



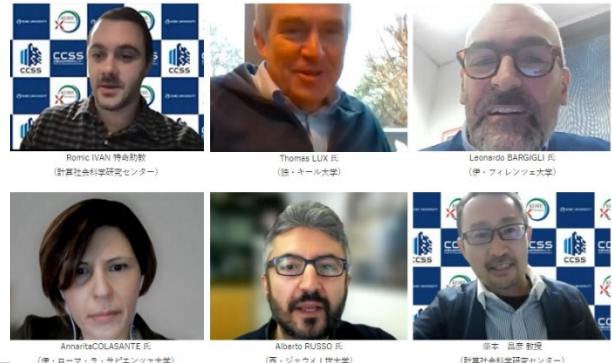
開催報告

計算社会科学センターは、2023年1月20日（金）に、オンライン開催にて「CCSS School on Computational Social Science: Agent-Based Models (ABM) in Economics」を開催しました。

4回目となる今回のCCSS School on Computational Social Scienceは、経済学におけるエージェント・ベース・モデルに着目して、国内外からの分野で著名な研究者7名が講演を行いました。当センターのシヤジ・サタマ教授の司会で幕を開け、今回のCCSS Schoolの開催に先立ち、主催である計算社会科学センターの上層委員会が関係のあいさつを行いました。2018年に設置された本センターの紹介や、同じく2018年に、上層委員会がEditor-in-ChiefとしてSpringerから刊行された、*Journal of Computational Social Science*について紹介されました。また第一講演者であるCorrado DI GIULIUMI以上の共同研究について触れ、今後計算社会科学がマクロ経済学に与える以上に受け入れられることを願っていると述べました。



セッション2は、当センターのRomic IVAN特別助産の司会でスタートしました。4名の研究者による研究報告があり、Thomas LLIX氏（独・キール大学）による「Approximate Bayesian Inference for Agent-Based Models in Economics: A Case Study」、Leonardo BARGIGLI氏（伊・フィレンツェ大学）による「An Introduction to the Frequentist Approach to ABM Estimation」、Annarita COLASANTE氏（伊・ローマ・ラ・サピエンツァ大学）による「Experiments and ABM」、liberto RUSSO氏（西・ジャケメ1世大学）による「Inequality and Monetary Policy with ABM」というタイトルで報告がありました。各講演のあとは、質疑応答の時間が設けられ、聴講者からの質問や意見に対して、活発な意見交換が行われました。



CCSS ホームページより抜粋：[http://ccss.kobe-u.ac.jp/event/seminar\\_all/2022/202301201500.html](http://ccss.kobe-u.ac.jp/event/seminar_all/2022/202301201500.html)

2.3. 計算社会科学センター運営アドバイザー称号の制定

本センターの運営に、学外で活躍している優れた実務家の知見を活かすため、2022年度に「計算社会科学センター運営アドバイザー」を設置しました。同年度に、株式会社 taliki 代表取締役の中村多伽氏に同称号を付与した。

3. 大型科研費・外部資金獲得実績

●上東貴志（教授・シミュレーション部門）：

- ① 国立研究開発法人科学技術振興機構 未来社会創造事業 探索加速型「超スマート社会の実現」領域 「社会リスク可視化システム、及び社会リスクに適切に対応する意思決定システムの開発」（研究代表者）2020年度～2022年度
- ② 文部科学省 科学研究費補助金：基盤研究 (S)「包括的な金融・財政政策のリスクマネジメント：金融危機から国際関係・災害リスクまで」（研究代表者）2020年度～2024年度

●貝原俊也（教授・シミュレーション部門）

- ① 国立研究開発法人科学技術振興機構 未来社会創造事業 探索加速型「超スマート社会の実現」領域「社会政策立案に向けたマルチスケール ABSS 手法」（研究代表者）2020年度～2022年度

●谷口隆晴（准教授・データ分析部門）

- ① 国立研究開発法人科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業 CREST [数理的情報活用基盤領域](#)に研究課題「幾何学的離散力学を核とする構造保存的システムモデリング・シミュレーション基盤」（研究代表者） 2019年度～2024年度

●小代薫（特命講師・データベース部門）

- ① 阪急電鉄株式会社：奨学寄付金「防災減災の国際連続ワークショップ（MIRAI BOSAI 2023）」2022年度
- ② デロイト トーマツ コンサルティング合同会社：奨学寄付金「防災減災の国際連続ワークショップ（MIRAI BOSAI 2023）」2022年度
- ③ 大学発アーバンイノベーション神戸：「魅力づくりのための、神戸の歴史的風景に含まれる『匂い』や『音』といった視覚以外の感性価値に主軸を置いた観光資源開発に関する研究」2022年度

●正田 ヴェラ パオラ レイエス(助教・データベース部門)

- ① 一般財団法人山岡記念財団「日独若者文化・ライフスタイルの研究助成」  
「ソーシャルメディア（Instagram）における日本とドイツの若い女性の自己表現に関する研究」 2022年度
- ② 大学発アーバンイノベーション神戸「神戸市における SNS を用いた『妊娠・出産・子育て支援』の心理的欲求に関する研究」2022年度

#### 4. 若手・女性・外国人研究者の育成

2020年度に女性限定の若手研究者を公募し採用している。

- ・正田 ヴェラ パオラ レイエス 助教 データベース部門（2021.11～）

2021年度に新たに以下の採用をしている。

- ・ロミチ イヴァン 特命助教 データ分析部門（2022.4～）
- ・サラマ シャディ 助手 データ分析部門（2022.4～）

2022年度に新たに以下の採用をしている。

- ・陳 訓泉 特命助教 データ分析部門（2022.11～）

## 5. データベースの構築と公開

計算社会科学センターでは、重要なデータを独占することなく、広く共有することで、計算社会科学の裾野を広げることを使命としている。その象徴とも言える試みが、研究データベースの公開であり、**Historical Database** と **Market Database** という 2 本の柱からなる。前者では、18 世紀から 20 世紀（第二次大戦前）にかけての歴史的な数量データを公開している。具体的には、①江戸時代中期以降における米価、金銀比価（金貨と銀貨の交換レート）、天候、経済的イベント、自然災害などを日次ベースで整理した近世経済データベース（**Early Modern Historical Database**）と、②近代日本に関するマクロ経済指標（月次）、国債利回り（月次）、財政・政府債務（年次）のデータである。①は、江戸時代を代表する三井家の大坂両替店が遺した記録を元に復元したデータベースであり、日次レベルの頻度で江戸時代のマーケットデータを公開するものとして唯一無二である。②は、第 1 次大戦後から高橋財政期におけるマクロ経済ならびに金融市場の詳細な分析に利用可能な月次データと、明治・大正・昭和戦前期の財政の維持可能性を検証するための年次データからなる。歴史研究者の中には、貴重なデータを抱えてはいるが公開する場がない（公開の仕方が分からない）といった事情を抱えている方も少なくない。今後も、計算社会科学 研究に資する歴史的な数量データは、積極的に採録、公開していく予定である。後者は、『地域別の市場データと消費者プロファイルの日次ベースで傾向整理したデータベース。ソーシャルメディア「SNS」（ツイッターや Google レビュー）の話題と感情のデータ』である。



#### IV. リサーチフェロー

2023年3月31日現在、17名のリサーチフェローが所属している。

	研究者氏名	所属	職名	任命期間
1	Alain Barrat	CNRS, Centre de Physique Théorique 東京工業大学	Deputy Director 特任教授	2018.12.1～2024.11.30
2	Ciro Cattuto	ISI Foundation	Scientific Director	2018.12.1～2024.11.30
3	Emilio Ferrara	University of Southern California	Professor	2018.12.1～2024.11.30
4	Petter Holme	Aalto University	Profesor	2018.12.1～2024.11.30
5	Kimmo Kaski	Aalto University	Senior Advisor	2018.12.1～2024.11.30
6	増田 直紀	State University of New York at Buffalo	Professor	2019.8.1～2025.7.31
7	Jesús Gómez Gardēnes	University of Zaragoza	Associate Professor	2019.8.1～2025.7.31
8	Corrado Di Guilmi	University of Technology Sydney	Senior Lecturer	2020.2.1～2026.1.31
9	鳥海 不二夫	東京大学	教授	2020.2.1～2026.1.31
10	笹原 和俊	東京工業大学	准教授	2020.2.1～2026.1.31
11	瀧川 裕貴	東京大学	准教授	2020.2.1～2026.1.31
12	遠藤 薫	学習院大学	教授	2020.2.1～2026.1.31
13	藤原 義久	兵庫県立大学	教授	2020.2.1～2026.1.31
14	和泉 潔	東京大学	教授	2020.2.1～2026.1.31
15	野田 五十樹	北海道大学	教授	2020.2.1～2026.1.31
16	伊藤 伸泰	理化学研究所	チームリーダー	2020.2.1～2024.1.31
17	榊 剛史	株式会社ホットリンク 東京大学未来ビジョン研究センター	開発本部 R&D部長 客員研究員	2020.3.1～2026.2.28

## V. 研究業績と活動状況

## 教授 上東 貴志 (Takashi KAMIHIGASHI)

- ・ 計算社会科学センター／シミュレーション部門
  - ・ 経済経営研究所
- 

### 研究活動

#### <研究業績>

##### 【論文】

#### ■レフェリー付論文

1. “[Existence of an optimal path in a continuous-time nonconcave Ramsey model](#),” (with Ken-Ichi Akao, Hitoshi Ishii, and Kazuo Nishimura), Pure and Applied Functional Analysis, Vol. 7, No. 6, Pages 1939-1952, 2022

#### □掲載予定論文 (Forthcoming)

1. “[Japan's Monetary Policy: A Literature Review and An Empirical Assessment](#),” (with Masahiko Shibamoto and Wataru Takahashi), Journal of Computational Social Science, forthcoming

#### ■掲載論文 (査読なし)

##### □未掲載論文(DP/WP)

1. “The Impact of Multi-Factor Productivity on Income Inequality,” (with Yosuke Sasaki), Discussion Paper Series, No.DP2022-31, RIEB Kobe University, 19 pp., June 2022
2. “Machine Learning: New Tools for Economic Analysis,” (with Katsuyuki Tanaka), Discussion Paper Series, No.DP2022-22, RIEB Kobe University, 20 pp., April 2022

##### 【その他】

1. 「ダイナミック・プログラミングとマルコフ連鎖」『経済学の歩き方 (2023年度版)』神戸大学経済経営学会 55-60頁 2023年3月

#### <学会報告等研究活動>

#### ■モデレーター (主催/司会/座長/討論者/パネリスト)

1. (座長)「中原賞受賞講演」『日本経済学会2022年度秋季大会』 慶応義塾大学 (オンライン開催) 2022年10月16日

#### <社会活動>

#### ■所属学会

1. 日本経済学会
2. 計算社会科学会
3. IEFS Japan
4. 数理経済学会

#### ■学会役員

1. 計算社会科学会・副会長 (2022年1月～)
2. International Economic Association (国際経済学連合) 理事 (2021年7月～)
3. 計算社会科学会・理事 (2021年3月～)
4. 日本学術会議・会員 (2020年10月1日～)
5. IEFS Japan・会長 (2019年1月1日～)
6. 日本経済学会・代議員 (2018年6月～2022年5月)

■雑誌編集

1. 査読付学術雑誌「Journal of Computational Social Science」(JCSS)  
Editor-in-Chief
2. 査読付学術雑誌「International Journal of Economic Theory (Wiley)」  
Editor-in-Chief
3. 経済理論専門誌「Economic Theory」の Associate Editor
4. 経済理論専門誌「Economic Theory Bulletin」 Associate Editor
5. 経済理論専門誌「Macroeconomic Dynamics」 Associate Editor
6. 経済理論専門誌「Mathematical Social Sciences」 Associate Editor

■学外委員

1. 科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業「ACT-X」研究領域「[AI活用学問革新創成]AI活用で挑む学問の革新と創成」 領域アドバイザー

<受賞>

1. 令和4年度第14回神戸大学学長表彰 財務貢献者 2022年10月



## 教授 北野 重人 (Shigeto KITANO)

- ・ 計算社会科学センター／シミュレーション部門
  - ・ 経済経営研究所
- 

### 研究活動

#### <研究業績>

##### 【著書】

1. “Global Financial Flows in the Pre- and Post-global Crisis Periods,” (with Yoichi Matsubayashi), Springer, September 2022

##### 【論文】

#### ■レフェリー付論文

1. “[Financial Market Incompleteness and International Cooperation on Capital Controls](#),” (with Kenya Takaku), International Journal of Economic Theory, Vol.18, Issue 4, pp.624-642, December 2022
2. “[Effects of China’s Capital Controls on Individual Asset Categories](#),” (with Yang Zhou), Finance Research Letters, Vol.49, Article 103032, October 2022

#### ■未掲載論文

1. “Effectiveness of Capital Controls: Gates versus Walls,” (with Yang Zhou), RIEB Discussion Paper Series No.2022-38, 23pp., December 2022

##### 【その他】

1. 「国際金融論」『経済学の歩き方（2023年度版）』神戸大学経済経営学会 pp.275-279 2023年3月
2. 「コロナ後の日本経済：財政問題について」RIEBニュースレター コラム No.234 2022年5月

#### <学会報告等研究活動>

##### ■報告（学会報告/会議報告）

1. （学会報告）“Effects of China’s Capital Controls on Individual Asset Categories” 日本金融学会2022年度春季全国大会 成城大学（オンライン開催）2022年5月14日

#### <社会活動>

##### ■所属学会

1. American Economic Association
2. 日本経済学会
3. 日本金融学会
4. 日本国際経済学会
5. IEFS JAPAN

##### ■学内外委員

- ・ 日本金融学会国際金融部会幹事（2018年～）
- ・ 神戸大学金融研究会幹事（2010年～）

■学術論文レフリー

- Journal of Money, Credit, and Banking
- Journal of International Money and Finance
- Journal of Macroeconomics
- Journal of Economics
- The Manchester School
- Review of Development Economics
- Japanese Economic Review
- Japanese Journal of Monetary and Financial Economics
- International Economic Journal
- Japan and the World Economy
- The B.E. Journal of Macroeconomics
- Emerging Markets Finance and Trade
- Economic Modelling
- Open Economies Review
- Economics Bulletin
- Applied Economics Letters
- Asia-Pacific Financial Markets

## 教授 飯塚 敦 (Atushi IIZUKA)

- ・ 計算社会科学センター/シミュレーション部門
  - ・ 都市安全研究センター
- 

### <研究業績>

#### 【論文】

##### ■レフェリー付論文

1. “[Constitutive model for swelling properties of unsaturated bentonite buffer materials during saturation](#)”  
Shinji Ito, Shinya Tachibana, Tomohide Takeyama, and Atsushi Iizuka  
Soils and Foundations, 62(4) 101161, August 2022
2. “[Separation of the primary and secondary consolidation of freeze-dried clay](#)”  
H. Ohta, T. Kondo, T. Hashimoto, T. Sakagami, and A. Iizuka  
Proceedings of 20th International Conference on Soil Mechanics and Geotechnical Engineering, 2, 179, May 2022
3. “[Numerical Analysis of the Axial and Radial Swelling of Unsaturated Compacted Bentonite](#)”  
Shinya Tachibana, Daisuke Hayashi, Tomoko Ishii, Tomohide Takeyama, and Atsushi Iizuka  
International Journal of GEOMATE, 22(92) 1-8, April 2022

##### ■掲載論文 (査読なし)

###### □掲載論文

1. 「デジタルツインに基づくスマート防災がもたらすパラダイムシフト」, 飯塚敦,  
月刊フェスク, 2022年26-31, 2022年12月

### <学会報告等研究活動>

#### ■講演 (招待講演/基調講演)

#### ■報告 (学会報告/会議報告)

1. (司会) 「未来防災会議DAY1 異分野共創ディスカッション」, 防災減災の国際連続ワークショップ MIRAI BOSAI 2023, 神戸大学百年記念館/オンライン開催, 2023年3月21日
2. (基調講演) 「都市デジタルツインがもたらす防災減災パラダイムシフト」, 鉄道地震工学研究センター 第9回 Annual Meeting 「データ連携による地震レジリエンスのさらなる向上」, オンライン開催, 2022年12月7日
3. (発表) 「デジタルツインによるスマート防災がもたらすもの」, 立命館大学防災フロンティア研究センター 2022年度第2回セミナー 防災趣味レーション技術の最前線, キャンパスプラザ京都/オンライン, 2022年10月21日
4. (パネリスト) 「デジタルツインを導入することにより, インフラ整備はどう変わるのか? (デジタルツインを導入することの意義)」, 令和4年度土木学会全国大会 研究討論会「土木分野におけるデジタルツインの活用拡大に向けて」, 京都国際会館/オンライン開催, 2022年9月14日
5. (発表) 「建設業界におけるDX (デジタル・トランスフォーメーション) の行方 ~生産性向上に如何に役立てるのか~」, 建設業界におけるDX (デジタル・トランスフォーメーション) の行方 ~生産性向上に如何に役立てるか~, オンライン

開催, 2022年6月14日

## <社会活動>

### ■所属学会

1. 国際開発学会
2. 応用生態工学会
3. 緑化工学会
4. 植生学会
5. 米国土木学会
6. 土木学会
7. 地盤工学会

### ■学外委員

- ・ 国際地盤工学会, Technical Committee TC6 (Unsaturated soils) Core member
- ・ 国土交通省社会資本整備審議会道路分科会近畿地方小委員会委員
- ・ 国土交通省社会資本整備審議会専門委員
- ・ 国土交通省近畿地方整備局, 総合評価委員会委員
- ・ 国土交通省近畿地方整備局, 港湾空港部門総合評価委員会委員
- ・ 国土交通省近畿地方整備局, 災害時建設業事業継続力認定委員会委員
- ・ 国土交通省近畿地方整備局, 総合評価委員会専門部会委員
- ・ 国土交通省近畿地方整備局, 兵庫ブロック総合評価委員会委員長
- ・ 国土交通省近畿地方整備局・阪神高速道路株式会社 大阪湾岸道路西伸部技術検討委員会基礎構造小委員会委員
- ・ 兵庫県, ひょうご安全の日推進事業, 計画等策定支援専門家委嘱
- ・ 兵庫県公共事業等審査会会長
- ・ 社団法人全日本建設技術協会, 公共工物品質確保技術者資格試験委員
- ・ 独立行政法人防災科学研究所兵庫耐震工学研究センター, 数値振動台研究開発分科会・地盤WG主査
- ・ 財団法人原子力環境整備促進・資金管理センター, 地下空洞型処分施設性能確証試験検討委員会委員
- ・ 公益財団法人原子力安全研究協会処分システム安全研究所, NUMO包括的技術報告書レビュー特別専門委員会委員
- ・ 国立研究開発法人海洋研究開発機構, 数理科学・先端技術研究分野 上席招聘研究員
- ・ 一般財団法人建設工学研究所・所員
- ・ 一般財団法人災害科学研究所・研究員
- ・ 一般社団法人FLIPコンソーシアム・顧問
- ・ 日刊工業新聞, (社)近畿建設協会, 建設技術展近畿, マイドーム大阪, 注目技術審査員  
橋梁コンテスト審査委員会委員長
- ・ (独) 日本学術振興会, 科学研究費委員会第25小委員会審査委員

### ■学外営利企業の役員

神戸大学発ベンチャー企業, 東京ジオテック株式会社, 取締役  
都市丸ごとシミュレーション技術研究組合 代表理事

## 教授 大石 哲 (Satoru OISHI)

- ・ 計算社会科学センター/シミュレーション部門
  - ・ 都市安全研究センター
- 

### 研究活動

#### <研究業績>

#### 【論文】

##### ■レフェリー付論文

1. “[Predicting Flood Inundation Depth Based-on Machine Learning and Numerical Simulation](#)”  
Bruno Adriano, Naoto Yokoya, Kazuki Yamanoi, and Satoru Oishi  
CEUR Workshop Proceedings, 3207, 58-64, July 2022
2. “[Predictive simulation of concurrent debris flows: How slope failure locations affect predicted damage](#)”  
Kazuki Yamanoi, Satoru Oishi, Kenji Kawaike, and Hajime Nakagawa  
Journal of Flood Risk Management, 15(2), e12776, June 2022
3. “Development of a 3D Finite-Element Modelling Generation System Based on Data Processing Platform and Fatigue Analysis of Full-Scale Reinforced-Concrete Bridge”  
Taiju Yoneda, Jie Fang, Hideyuki Otani, Satoshi Tsuchiya, and Satoru Oishi  
IABSE Symposium Prague 2022, 415-422, May 2022
4. “[Development of regional climate model for Hyogo prefecture, Japan using statistical downscaling method on CanESM2 RCP2.6, 4.5 and 8.5 scenarios](#)”  
Pei Yee Ng, Kok Weng Tan, and Satoru Oishi  
E3S Web of Conferences, 347, 05015, April 2022
5. “[Breaking Limits of Remote Sensing by Deep Learning From Simulated Data for Flood and Debris-Flow Mapping](#)”  
Naoto Yokoya, Kazuki Yamanoi, Wei He, Gerald Baier, Bruno Adriano, Hiroyuki Miura, and Satoru Oishi  
IEEE Transactions on Geoscience and Remote Sensing, 60, April 2022
6. “[Estimating the velocity of pyroclastic density currents using an operational dual-PRF radar](#)”  
Magfira Syarifuddin, Susanna F. Jenkins, Benoit Taisne, Satoru Oishi, Ahmad Basuki, and Masato Iguchi  
Journal of Volcanology and Geothermal Research, 424, 107462, April 2022

#### 【その他】

#### <学会報告等研究活動>

##### ■講演（招待講演/基調講演）

1. （基調講演）「近未来の複合災害の減災に資するデジタルトランスフォーメーション」  
最先端の構造シミュレーションの地震防災への活用に向けて 数値震動台研究開発プロジェクト成果発表会, 日本建築学会 建築会館ホール, 2023年3月27日
2. （基調講演）「MIRAIBOSAI（スマート防災）の展望」

防災減災の国際連続ワークショップ MIRAI BOSAI 2023, オンデマンド配信, 2023年3月20～21日

3. (基調講演)「防災シミュレーションに必要なデジタルトランスフォーメーション」  
The 6th Visualization Workshop, 神戸大学瀧川記念学術交流会館/オンライン開催,  
2023年3月13日

#### ■報告(学会報告/会議報告)

1. (発表)「電波で豪雨災害の被害軽減」  
千里ライフサイエンスフォーラム 2022年11月フォーラム(第350回), 千里ライフサイエンスセンタービル, 2022年11月21日
2. (発表)「多様な情報からデジタルツインを自動作成するデータ処理プラットフォーム」  
理化学研究所 新技術説明会, オンライン開催, 2022年6月7日

#### ■記事(解説/コメント/インタビュー記事/寄稿)

1. 静岡新聞 コメント「田代ダム案『法抵触しない』JR東海、政府見解を説明【大井川とリニア】」(2022年11月1日付電子版)
2. 静岡新聞 コメント「JRに文書回答要請 県専門部会 意見や質問64項目【大井川とリニア】」(2022年8月26日付電子版)
3. 神戸新聞 コメント「牙をむく気候 水害リスク増大」2022年8月1日付電子版)
4. 静岡新聞 コメント「田代ダム案、批判続出『再検討を』JR東海、冬の施設 維持取水量考慮せず試算」(2022年7月21日付電子版)
5. 読売新聞 コメント「線状降水帯 県内も注意」(2022年6月14日付朝刊・電子版)27頁

### <社会活動>

#### ■所属学会

- 1.国際水圏環境工学研究会 (IAHR)
- 2.土木学会
- 3.水文・水質源学会
- 4.日本気象学会
- 5.米国地球物理学会 (AGU)
- 6.米国気象学会 (AMS)
- 7.砂防学会

#### ■学会役員

1. 国際水圏環境工学研究会 (IAHR) 水資源マネジメント研究部会 部会長
2. 土木学会水工学委員会水害対策小委員会委員長

#### ■学外委員/チーム

- ・理化学研究所 計算科学研究センター 総合防災・減災研究チーム チームリーダー
- ・兵庫県武庫川水系河川整備計画フォローアップ懇話会座長
- ・阪神西部(武庫川流域圏)地域総合治水推進協議会会長
- ・静岡県公共事業評価委員会会長
- ・静岡県河川審議会会長

## 教授 貝原 俊也 (Toshiya KAIHARA)

- ・ 計算社会科学センター/シミュレーション部門
  - ・ 大学院システム情報学研究科
- 

### 研究活動

#### <研究業績>

##### 【著書】

1. “Innovative Systems Approach for Facilitating Smarter World” (with Hajime Kita, Shingo Takahashi, and Motohisa Funabashi), Springer, March 2023

##### 【論文】

#### ■レフェリー付論文

1. 「生産性と電力消費に対する生産計画者の意思決定基準を反映したスケジューリング手法の一提案」  
(藪内 雅幸、藤井 信忠、國領 大介と共著) 『システム制御情報学会論文誌』 81-90頁  
2023年3月
2. “Automatic Design of CAE Architecture Using Genetic Algorithms for Diagnosis of Crop Diseases”, (with Takuya Kishimoto, Nobutada Fujii, Ruriko Watanabe, Daisuke Kokuryo, Shinichi Nakano, and Shinji Nishigichi), 13th International Congress on Advanced Applied Informatics, pp. 114-117, December 2022
3. “A Proposal of Profit Allocation Mechanism with Combinatorial Double Auction for CrowdSourced Manufacturing”, (with Kensuke, Daisuke Kokuryo, and Nobutada Fujii) 19th International Conference on Precision Engineering (ICPE2022), C188 ,November 2022
4. “Basic trial on integrated planning method of production scheduling and AGV route planning with Lagrangian decomposition and coordination approach”, (with Hayate Ohmoto, Nobutada Fujii, and Daisuke Kokuryo), 19th International Conference on Precision Engineering (ICPE2022) , C208, November 2022
5. “Improvement of production scheduling method with robust optimization approach considering operation time variation and production efficiency”, (with Daiki Nagata, Nobutada Fujii, Daisuke Kokuryo, Toyohiro Umeda, and Houei Mizuhara), 19th International Conference on Precision Engineering (ICPE2022), C217, November 2022
6. “A Proposal of Data-Driven and Multi-scale Modeling Approach for Material Flow Simulation”, (with Satoshi Nagahara, Nobutada Fujii, and Daisuke Kokuryo), Advances in Production Management Systems. Smart Manufacturing and Logistics Systems: Turning Ideas into Action, pp.207-215, September 2022
7. “Societal Prototyping Design (SPD), an integrative platform for policy design to realize a sustainable and healthy society”, (with Takao Terano, Hajime Kita, and Shingo Takahashi), Social Simulation Conference 2022, September 2022
8. “A study on multi-scale modeling in social simulation focusing on relationships among decision-makers”, (with Gaku Shimizu, Daisuke Kokuryo, and Nobutada Fujii), Social Simulation Conference 2022, September 2022
9. “A Proposal of Profit Allocation Mechanism with Combinatorial Double Auction for CrowdSourced Manufacturing”, (with Daisuke Kokuryo, Nobutada Fujii, Toru Murakami, Toyohiro Umeda, and Houei Mizuhara), Proceedings of the 2022 International Symposium on Flexible Automation, pp.49-54, July 2022

10. “A Store Layout Planning Method for Underground Shopping Streets Simulation Using Human Flow Data and Genetic Algorithm”, (Nobutada Fujii, Ruriko Watanabe, Daisuke Kokuryo, Makoto Son, Mariko Doi, Yoshiyasu Suzuki, and Yushi Yoshida), Proceedings of the 2022 International Symposium on Flexible Automation, pp. 250-256, July 2022
11. “Surrogate Assisted Gene Expression Programming for Automated Design of Job Shop Scheduling Rules”, (with Salama Shady, Nobutada Fujii, and Daisuke Kokuryo), Proceedings of the 2022 International Symposium on Flexible Automation, pp.324-330, July 2022
12. “A proposal of production scheduling method with dynamic parts allocation for mass customization”, (with Shinsuke Tsutsui, Daisuke Kokuryo, Nobutada Fujii, Kenichi Harano), Procedia CIRP, Vol.107, pp. 882-887, June 2022
13. “A study on sharing logistics network design under uncertain demand in a competitive environment”, (with Asumi Ito, Daisuke Kokuryo, Nobutada Fujii), Procedia CIRP, Vol.107, pp.794-797, June 2022
14. “Multi-objective Approach with a Distance Metric in Genetic Programming for Job Shop Scheduling”, (with Shady Salama, Nobutada Fujii, and Daisuke Kokuryo), International Journal of Automation Technology, Vol. 16, No. 3, pp.296-308, May 2022

□掲載予定論文 (Forthcoming)

1. “Feature selection approach for evolving reactive scheduling policies for dynamic job shop scheduling problem using gene expression programming”, (with Salama, Nobutada Fujii, and Daisuke Kokuryo), International Journal of Automation Technology, forthcoming

■掲載論文 (査読なし)

1. “Toward Realization of Innovative Systems Approach for Societal Design: Multiscale Social Modeling and Simulation (MSMS) Methodology, ” (with Nikhanbayev Nursultan ), Innovative Systems Approach for Facilitating Smarter World , pp.1-27, March 2023
2. 「社会シミュレーションによる政策立案への接近～未来社会の共創的デザイン手法 SPD (Societal Prototyping Design)」 『計測と制御』 62巻1号 27-32頁 2023年1月
3. 「デジタル社会実験の実現に挑むリアルスケール社会シミュレーション」 『計測と制御』 62巻 1号 4-8頁 2023年1月
4. 「リース業における在庫管理手法の一提案」 (藤井信忠、藤井進と共著) 『IMS 精密工学会 総合生産システム専門委員会 2021年度活動報告書』 56-64頁 2022年8月

<学会報告等研究活動>

■講演 (招待講演/基調講演/発表/口頭発表)

1. (口頭発表) 農作物病害診断のための遺伝的アルゴリズムを用いた畳み込みオートエンコーダの構造最適化手法に関する研究  
岸本拓也、藤井信忠、渡邊るりこ、國領大介、貝原俊也、中野伸一、西口真嗣  
2023年度精密工学会春季大会学術講演会 2023年3月14日
2. (口頭発表) システム間連携による価値創出に向けた公共交通に関わるステークホルダの関係性分析  
岡田浩一、貝原俊也、藤井信忠、國領大介、渡邊るりこ



第31回社会システム部会研究会 2023年3月7日

3. (口頭発表) 主体的な健康増進実現におけるコミュニティがモチベーションへ及ぼす影響の一検討  
貝原俊也、藤井信忠、國領大介、渡邊りこ、山野上恵、原野健一、野村泰弘  
第31回社会システム部会研究会 2023年3月7日
4. (口頭発表) ラグランジュ分解・調整法を用いた生産・搬送スケジューリングの同時最適化手法に関する研究～双対ギャップの改善に向けて～  
大本颯、貝原俊也、國領大介、藤井信忠、渡邊りこ  
日本機械学会 生産システム部門研究発表講演会2023 2023年3月7日
5. (口頭発表) 処理時間の不確実性を考慮した作業配置を含むジョブショップスケジューリング最適化手法の一提案  
永田大貴、貝原俊也、藤井信忠、國領大介、渡邊りこ  
第31回社会システム部会研究会 2023年3月7日
6. (口頭発表) セル生産の組立て実験による作業配置の有効性検証に関する研究  
遠藤萌、佐藤碧、原口春海、貝原俊也、藤井信忠、國領大介  
日本機械学会 生産システム部門研究発表講演会2023 2023年3月7日
7. (口頭発表) 強靭性を有するサプライチェーンネットワークに関する研究—調達先選定と適正在庫水準の評価—  
小林響生、貝原俊也、藤井信忠、國領大介、渡邊りこ、田中里奈、原昌史、宮地優斗、プーチット・サリッディチャイナター  
日本機械学会 生産システム部門研究発表講演会2023 2023年3月7日
8. (口頭発表) 再生可能エネルギーと電力需要の変動を考慮した電力運用計画手法の一提案  
貝原俊也、國領大介、藤井信忠、渡邊りこ、西川綾乃  
日本機械学会 生産システム部門研究発表講演会2023 2023年3月7日
9. (口頭発表) クラウドソーシードマニュファクチャリングにおける組合せダブルオークションを用いた長期的利潤に基づくリソース配分手法の一提案  
栗本健介、貝原俊也、國領大介、藤井信忠、渡邊りこ  
日本機械学会 生産システム部門研究発表講演会2023 2023年3月7日
10. (口頭発表) マスカスタマイゼーションのための需要変動を考慮した生産計画手法に関する研究  
筒井伸輔、貝原俊也、國領大介、藤井信忠、渡邊りこ、原野健一、野村泰弘  
日本機械学会 生産システム部門研究発表講演会2023 2023年3月6日
11. (口頭発表) 意思決定主体間の関係性に基づくモデル統合による社会システムにおけるマルチスケールモデリングの提案  
清水岳、貝原俊也、國領大介、藤井信忠、渡邊りこ  
第31回社会システム部会研究会 2023年3月5日
12. (口頭発表) バックオフィス業務を対象とする組合せオークションを用いた業務割当計画手法  
鈴木陽太、藤井信忠、渡邊りこ、國領大介、貝原俊也、澤田健作、上原一仁  
工知能学会 経営課題にAIを！ビジネス・インフォマティクス研究会 第22回研究会  
2023年3月4日

13. (司会) Session 4A : 構想発表3A  
第30回社会システム部会研究会 2022年8月28日
14. (口頭発表) 社会システムにおける意思決定主体間の関係性に着目したマルチスケールモデリングの提案  
清水岳、貝原俊也、國領大介、藤井信忠  
第30回社会システム部会研究会 2022年8月29日
15. (口頭発表) システム間連携に着目したスマートな公共交通サービスの提案  
岡田浩一、貝原俊也、藤井信忠、國領大介  
第30回社会システム部会研究会 2022年8月28日
16. (招待講演) New trends about Smart Manufacturing System in Society 5.0 Era  
Toshiya Kaihara  
Open Forum "New fusion of Mechanical Engineering and Informatics" 2022年8月30日
17. (口頭発表) 肝臓動態予測に向けた肝臓内血管自動追尾手法の提案  
白石翔、國領大介、貝原俊也、藤井信忠、熊本悦子  
第50回日本磁気共鳴医学会大会 2022年9月10日
18. (口頭発表) 磁気共鳴シミュレーションを用いた定量値推定法の提案  
作田隼樹、國領大介、貝原俊也、藤井信忠、熊本悦子  
第50回日本磁気共鳴医学会大会 2022年9月10日
19. (司会) "Multiscale ABSS method for social policy making" Section II  
Social Simulation Conference 2022 2022年9月13日
20. (口頭発表) 複数の意思決定基準と連携を考慮した生産計画・工場エネルギー供給計画の特性評価  
國領大介、薮内雅幸、貝原俊也、藤井信忠  
スケジューリング・シンポジウム2022 2022年9月16日
21. (口頭発表) 畳み込みオートエンコーダを用いた農作物の病害株発見手法 (第2報)  
(遺伝的アルゴリズムを用いたハイパーパラメータ最適化)  
岸本拓也、藤井信忠、渡邊るりこ、國領大介、貝原俊也、中野伸一、西口真  
一般社団法人 日本機械学会 第32回設計工学・システム部門講演会 2022年9月20日
22. (口頭発表) 社会シミュレーションを用いた制約付きマッチング理論に基づく新興感染症患者療養先決定手法の評価  
國領大介、貝原俊也、藤井信忠、川本恭平  
第30回インテリジェント・システム・シンポジウム 2022年9月22日
23. (口頭発表) マルチスケールモデリングを用いた社会シミュレーションによる意思決定主体間の関係性評価~COVID-19施策を対象として~  
清水岳、貝原俊也、藤井信忠、渡邊るりこ、國領大介  
第30回インテリジェント・システム・シンポジウム 2022年9月22日
24. (口頭発表) 社会政策立案に向けたマルチスケールABSS手法  
貝原俊也  
学術情報メディアセンターセミナー「リアルスケールの社会シミュレーションへの挑戦」2022年10月18日
25. (口頭発表) 映像情報を用いた駐車場利用状況の可視化に関する研究  
木村和真、藤井信忠、渡邊るりこ、國領大介、貝原俊也  
第65回自動制御連合講演会 2022年11月13日

26. (口頭発表) MR画像に領域拡張法を適用した肝臓内血管自動追尾手法の有効性評価  
白石翔、國領大介、貝原俊也、藤井信忠、渡邊るりこ、熊本悦子  
第65回 自動制御連合講演会 2022年11月13日
27. (口頭発表) 磁気共鳴シミュレーションを用いたMR画像に対する定量値推定法の高速化とその有効性評価  
作田隼樹、國領大介、貝原俊也、藤井信忠、渡邊るりこ、熊本悦子  
第65回 自動制御連合講演会 2022年11月13日
28. (口頭発表) 組合せオークションを用いた従業員満足度と業務時間の最小化を目的とした業務割当計画手法  
鈴木陽太、藤井信忠、渡邊るりこ、國領大介、貝原俊也、上田敬介、上原一仁  
第65回 自動制御連合講演会 2022年11月13日
29. (口頭発表) ラグランジュ分解・調整法を用いた生産スケジューリングとAGVへの搬送作業割当に対する同時最適化手法の一提案  
大本颯、貝原俊也、藤井信忠、國領大介、渡邊るりこ  
第65回 自動制御連合講演会 2022年11月13日
30. (口頭発表) クラウドソースドマニファクチャリング環境下における耐戦略性を満たすリソース配分手法の提案  
栗本健介、貝原俊也、藤井信忠、渡邊るりこ、國領大介  
第65回 自動制御連合講演会 2022年11月13日
31. (口頭発表) マスカスタマイゼーション実現のための生産スケジューリングに関する研究 ―納期及び製造進捗を考慮した動的部品割当変更―  
筒井伸輔、貝原俊也、國領大介、藤井信忠、渡邊るりこ、原野健一  
第65回 自動制御連合講演会 2022年11月13日
32. (口頭発表) マルチスケールモデリングを用いた社会シミュレーションによる意思決定主体間の合意形成支援  
清水岳、貝原俊也、藤井信忠、渡邊るりこ、國領大介  
第65回 自動制御連合講演会 2022年11月13日
33. (口頭発表) マルチスケール社会シミュレーションによる社会政策立案への接近  
貝原俊也  
エネルギー研究部会 第10回研究会 (2022年度第2回) 2022年11月13日
34. (司会) Advanced system design and applications 2  
13th International Congress on Advanced Applied Informatics 2022年11月30日
35. (司会) 都市・社会政策支援のためのデジタル社会実験基盤技術の創出に向けて  
第13回横幹連合コンファレンス「データサイエンスで拓く横幹科学技術の新展開」  
2022年12月17日
36. (口頭発表) マルチスケールABSS手法のデジタル社会実験基盤技術への展開  
貝原俊也  
第13回横幹連合コンファレンス「データサイエンスで拓く横幹科学技術の新展開」  
2022年12月17日
37. (口頭発表) セル生産における作業者の不在を考慮したロバストな作業者訓練に関する研究  
吉田祐次郎、原口春海、貝原俊也、藤井信忠  
日本経営工学会 2022年 春季大会 2022年5月22日
38. (口頭発表) クロスリカレンスプロットと動的時間伸縮法を用いた列車運転操作にお

ける特徴抽出手法

藤井信忠、渡邊るりこ、國領大介、貝原俊也、関原規晃、玉置久  
日本経営工学会 2022年 春季大会 2022年5月21日

39. (口頭発表) 業務時間最小化と稼働率平準化を考慮した業務割当計画手法  
鈴木陽太、藤井信忠、渡邊るりこ、國領大介、貝原俊也、上田敬介、上原一仁  
第66回 システム制御情報学会 研究発表講演会 2022年5月18日
40. (口頭発表) 作業時間の変動を考慮したロバスト最適化による生産スケジューリング  
手法の一提案  
永田大貴、貝原俊也、藤井信忠、國領大介、梅田豊裕、水原宝英  
第66回 システム制御情報学会 研究発表講演会 2022年5月18日
41. (口頭発表) クラウドソースドマニファクチャリング環境下における協カゲーム理  
論の概念を導入した利得配分手法の提案  
栗本健介、貝原俊也、國領大介、藤井信忠  
第66回 システム制御情報学会 研究発表講演会 2022年5月18日
42. (口頭発表) ラグランジュ分解・調整法を用いた生産計画と搬送経路計画の統合策定  
手法に関する一検討  
大本颯、貝原俊也、國領大介、藤井信忠  
第66回 システム制御情報学会 研究発表講演会 2022年5月18日

■記事 (解説/コメント/インタビュー記事/寄稿)

## <社会活動>

### ■所属学会

1. IFAC (International Federation of Automatic Control)
2. 日本工学アカデミー
3. サービス学会
4. CIRP (Collège International pour la Recherche en Productique)
5. IFIP (International Federation of Information Processing)
6. IEEE (Institute of Electrical and Electronics Engineers)
7. スケジューリング学会
8. 日本オペレーションズリサーチ学会
9. 計測自動制御学会
10. システム制御情報学会
11. 電気学会
12. 精密工学会
13. 日本機械学会

### ■学会役員

2022年03月 - 現在, 電気学会, フェロー (2019-)  
2020年07月 - 現在, 日本工学アカデミー, 会員  
2018年04月 - 現在, 日本機械学会, 生産システム部門 部門長 (2018-2019), フェロー (2019-)  
2012年08月 - 現在, 国際生産工学アカデミー (CIRP), 会員 (2012-2020), フェロー (2020-)  
2007年08月 - 現在, 日本学術会議, 自動制御の多分野応用小委員会 委員

## 教授 横川 三津夫 (Mitsuo YOKOKAWA)

- ・ 計算社会科学センター/シミュレーション部門
  - ・ 大学院システム情報学研究科
- 

### 研究活動

#### <研究業績>

#### 【論文】

##### ■掲載論文 (査読なし)

1. 鈴木綾介, 横川三津夫, 石原卓「非圧縮一様等方性乱流 DNS データを用いた超解像再構成におけるレイノルズ数依存性」日本流体力学会2022, pp. 1-3 (2022)
2. 畑中裕翔, 松本泰生, 山根悠輝, 山口健太, 曾我隆, 撫佐昭裕, 小松一彦, 今村俊幸, 石原卓, 横川三津夫, 「メモリ節約型非圧縮性乱流直接数値シミュレーションコードの挙動解析」 Vol. 2023-HPC-188, No. 5, pp. 1-8 (2023)
3. 福井匠, 鈴木綾介, 石原卓, 横川三津夫「マルチGPUによる2次元画像超解像モデルの性能評価」 Vol. 2023-HPC-188, No. 16, pp. 1-7 (2023)

#### <社会活動>

##### ■所属学会

1. 一般社団法人日本流体力学会
2. 一般社団法人日本応用数理学会
3. 一般社団法人情報処理学会
4. 米国ACM学会

##### ■学外委員

- ・ 公益財団法人計算科学振興財団・理事
- ・ 神戸医療産業都市推進機構運営委員会・委員
- ・ インダストリスパコン推進センター アドバイザー

## 教授 佐野 英樹 (Hideki SANO)

- ・ 計算社会科学センター/シミュレーション部門
  - ・ 大学院システム情報学研究科
- 

### 研究活動

#### <研究業績>

#### 【論文】

##### ■レフェリー付論文

1. [“Secure Communication Systems Based on Synchronization of Chaotic Vibration of Wave Equations”](#)  
Hideki Sano, Masashi Wakaiki, and Takaharu Yaguchi  
Journal of Signal Processing, 26(6), pp. 147-158, 2022年11月
2. [“Synchronizing chaotic PDE system using backstepping and its application to image encryption”](#)  
Hideki Sano and Masashi Wakaiki  
SICE Journal of Control, Measurement, and System Integration, 15(2), pp. 182-190  
2022年9月
3. [“Observers for 2 x 2 hyperbolic systems with coupled nonlocal boundary condition”](#)  
Hideki Sano  
Proceedings of the 13th Asian Control Conference, pp.1250-1255, 2022年5月

#### <学会報告等研究活動>

##### ■報告 (学会報告/会議報告)

1. (発表) 「無限次元系のカオス同期化を用いた対称鍵生成と秘匿通信について」,  
2022年度 応用数学合同研究集会 龍谷大学瀬田キャンパス 2022年12月16日
2. (座長) 「無限次元系の安定性解析・安定化手法における最近の進展」, 第64回システム制御情報学会 研究発表講演会 オンライン開催 2022年5月22日
3. (発表) 「潜伏期間と観測遅れを伴うKermack-McKendrickモデルに対する状態推定」,  
第64回システム制御情報学会 研究発表講演会 オンライン開催 2022年5月22日

#### <社会活動>

##### ■所属学会

1. The Mathematical Society of Japan
2. The Japan Society for Industrial and Applied Mathematics
3. The Society of Instrument and Control Engineers
4. The Institute of Systems, Control and Information Engineers
5. 日本数学会
6. 日本応用数理学会
7. 計測自動制御学会
8. システム制御情報学会

## 教授 西谷 公孝 (Kimitaka NISHITANI)

- ・ 計算社会科学センター／データ分析部門
  - ・ 経済経営研究所
- 

### 研究活動

#### <研究業績>

##### 【著書】

1. “Emergent Responsible Management: A Social Connection Model,” (coauthored with Kokubu, K., Kitada, H., and Ando, M.), Springer, 136pp., July 2022

##### 【編著書】

1. 西谷公孝・國本光正・加島美和・伊藤宗彦 編著『鐘紡資料叢書 社長訓示編第10巻 (研究叢書87)』神戸大学経済経営研究所 408頁 2023年3月
2. 西谷公孝・國本光正・加島美和・伊藤宗彦 編著『鐘紡資料叢書 社長訓示編第9巻 (研究叢書86)』神戸大学経済経営研究所 251頁 2022年9月

##### 【著書 (分担執筆)】

1. 「SDGs時代の新しい働き方と価値創造」神戸大学V.School編『価値の創造を考える 2021年度神戸大学V.Schoolの取り組みの軌跡』神戸大学出版会 47-51頁 2023年3月

##### 【論文】

#### ■レフェリー付論文

1. “[What institutional characteristics determine and mitigate gender inequality in the workplace? An empirical analysis of Japanese firms](#),” (coauthored with Kawaguchi, A.), Women’s Studies International Forum, Vol. 97, 102683, March 2023
2. “[Revisiting sustainability disclosure theories: Evidence from corporate climate change disclosure in the United States and Japan](#),” (coauthored with Park, J.D., Kokubu, K., Freedman, M., and Weng, Y.), Journal of Cleaner Production, Vol. 382, 135203, January 2023
3. “[Ownership structure, corporate governance, and assurance in sustainability reporting: Evidence from Japan](#),” (coauthored with Haider, M.B.), International Journal of Disclosure and Governance, Vol. 19, Issue 4, pp.374-388, December 2022

#### ■掲載論文

1. 「サステナビリティ経営に求められる今後の形を考える」『季刊ひょうご経済』第154号 2-5頁 2022年4月
2. 「SDGsに貢献するサステナビリティ経営と企業価値」『野村サステナビリティクォーター』第3巻第1号 5-6頁 2022年2月

#### □未掲載論文(DP/WP)

1. “Does Board Gender Diversity Actually Matter to Shareholder Value? Clarifying What Causes a Spurious Relationship in Japanese Listed Firms,” (coauthored with Kawaguchi, A.), RIEB Discussion Paper Series, DP2022-33, 34pp., August 2022

##### 【その他】

1. 「サステナビリティ経営を研究するために」『経営学の歩き方 (2023年度版)』神戸大学経済経営学会 101-103頁 2023年3月

## <社会活動>

### ■所属学会

1. 環境経済・政策学会
2. 日本社会関連会計学会
3. 日本LCA学会
4. 日本会計研究学会
5. Centre for Social & Environmental Accounting Research

## <国際交流活動>

1. 「環境情報開示の日米比較研究」國部克彦（神戸大学）、Jin Dong Park（タウソン大学）と共同研究
2. 「統合報告書の日英比較研究」國部克彦（神戸大学）、遠藤貴宏（ビクトリア大学）、Jeffrey Unerman（ランカスター大学）、Franco Zappettini（リバプール大学）と共同研究
3. 「日本・ドイツ企業における経営管理と環境マネジメントの関係に関する国際比較研究」國部克彦（神戸大学）、梶原武久（神戸大学）、北田皓嗣（法政大学）、Thomas Guenther（国連大学）、Edeltraud Guenther（ドレスデン工科大学）他と共同研究
4. 「アジアにおける企業の環境経営モデルの展開とステークホルダーによる導入支援方策に関する研究」國部克彦（神戸大学）、Nguyen Thi Bich Hue（貿易大学）、Pakpong Pochanart（National Institute of Development Administration）他と共同研究



## 教授 中川 丈久 (Takehisa NAKAGAWA)

- ・ 計算社会科学センター/データ分析部門
  - ・ 大学院法学研究科
- 

### 研究活動

#### <研究業績>

【論文】

##### ■掲載論文 (査読なし)

###### □掲載論文

1. 「[消費者安全調査委員会設立10年の成果と今後の課題](#)」  
中川 丈久  
国民生活 2023年2月号 11-14頁 2023年2月
2. 「[令和4年司法試験 \(行政法\) の出題に関する疑義——行政法規 \(処分要件\) の解釈と実体的違法事由をめぐって](#)」  
中川丈久・興津征雄  
法学セミナー 2023年3月号(Vol.68-3) 44-53頁 2023年2月
3. 「[座談会 依頼者弁護士間通信秘密保護を制度化するための課題と展望](#)」  
中川 丈久 他  
自由と正義 73(12) 27-34頁 2022年12月
4. 「[消費者と行政法](#)」  
中川 丈久  
中田邦博・鹿野菜穂子 (編) 『基本講義 消費者法 (第5版)』第一部第3章  
42-54頁 2022年9月
5. “[IEL Constitutional Law: Japan \(2021 version\)](#)”  
Hiroyuki Hata, Go Nakagawa, Takehisa Nakagawa, Hiromi Nishimura, and Takayoshi Okada  
(André Alen and David Haljan eds.), IEL Constitutional Law 1-212 2022年4月

#### <学会報告等研究活動>

##### ■講演 (招待講演/基調講演)

1. (基調講演) 「政策法務の意義と課題」 条例作成実習の講評, 条例作成実習を通して多角的な視点を学ぼう! ~政策法務研修~, 神戸商工貿易センタービル, 2022年12月15日

##### ■報告 (学会報告/会議報告)

1. (司会) 日本消費者法学会第15回大会「デジタル社会における消費者法の課題」, オンライン開催, 2022年11月6日
2. (発表) 「骨太」な消費者法——包括力・救済力・打撃力, 第4回消費者法の現状を検証し将来の在り方を考える有識者懇談会, 中央合同庁舎第4号館/オンライン開催, 2022年10月25日
3. (パネリスト) 第1部 行政訴訟における主張構成の方法「都市公園法に基づく公園施設設置許可をめぐる争い」, 第8回公法系訴訟サマースクール, オンライン開催, 2022年8月27日

## <社会活動>

### ■所属学会

1. 日本消費者法学会
2. 日米法学会
3. 日本公法学会

### ■学会役員

1. 日本消費者法学会・理事
2. 日米法学会・理事

### ■雑誌編集

1. 民商法雑誌 編集委員

### ■学外委員

1. 消費者庁・消費者安全調査委員会（“消費者事故調”）委員長（2018年10月～）
2. 文部科学省 中央教育審議会・法科大学院等特別委員会・委員（2019年6月～）
3. 文部科学省 教科用図書検定調査審議会・臨時委員（2020年4月～）
4. 人事院：国家公務員試験（総合職）考查委員（2010年～）
5. 兵庫県行政不服審査会・会長
6. 兵庫県情報公開・個人情報保護審査会・会長
7. 兵庫県本人確認情報保護審議会・会長
8. 神戸市個人情報保護審議会・委員
9. 神戸市消費生活会議・委員
10. 神戸市消費者紛争処理委員会・委員
11. 豊中市情報公開・個人情報保護審査・委員

## 教授 栗木 契 (Kei KURIKI)

- ・ 計算社会科学センター/データ分析部門
  - ・ 大学院経営学研究科
- 

### 研究活動

#### <研究業績>

#### 【論文】

##### ■レフェリー付論文

1. 本庄加代子・栗木契「インターナルブランディングをテコとした不祥事からのビジネスモデルの転換—アクサス株式会社—」『マーケティングジャーナル』42(2) 63-72頁 2022年9月

##### ■掲載論文 (査読なし)

###### □掲載論文

2. 「VUCA時代の新たな戦略行動 マーケターは"エフェクチュエーション"をどう採り入れるか？」『宣伝会議』2023年4月号 98-99頁 2023年3月
3. 「バリュー・クリエイションを研究するために」『経営学の歩き方 (2023年度版) (神戸大学経済経営学会) 第II部 222-225頁 2023年3月
4. 「<経営の視点> 目標の柔軟な見直しから生まれたアスクルの飛躍」『季刊ひょうご経済』157号 2023年1月
5. 「イノベーションを活性化するマーケティング・リサーチ」『国民経済雑誌』第226巻第6号 49-65頁 2022年12月
6. 「<経営の視点> 起業家的行動が、なぜ、今、マーケティングに必要なか」『季刊ひょうご経済』156号 2022年10月
7. 「<経営の視点> デジタル時代に求められる実験発想のマーケティング」『季刊ひょうご経済』155号 2022年7月
8. 「俊敏さに回帰するマーケティング：脱・戦略計画が、なぜ、今、私たちに必要か」『季刊ビジネス・インサイト』第30巻第1号 2022年4月
9. 「<経営の視点> コロナ禍の京都の花街に思う歴史の教訓」『季刊ひょうご経済』154号 12-13頁 2022年4月

#### 【その他】

1. 「画期的なPC『レッツノート2in1タイプ』はいかにして誕生したか？佐々木仰氏が明かす"開発秘話"」MAG2 NEWS 2023年3月
2. 「『お金のため』だけではなく...IT企業の執行役員が『9つの副業』を続けている理由」PRESIDENT Online 2023年2月
3. 「マウンテンバイクは改造と遊びから生まれた。ユーザー発のイノベーションを後押しする『博報堂』の画期的な試みとは？」MAG2 NEWS 2023年1月
4. 「『行政処分で会社存亡の危機』から3年足らずで過去最高益...ある派遣会社が大逆転できた理由」PRESIDENT Online 2022年12月

5. 「大手メーカーが"見放した技術"を再生。アラジン『高級トースター』人気の秘密」MAG2 NEWS 2022年11月
6. 「不本意なギザギザ切り口を「かわいい」と褒められた...工業用マスキングテープが売れ筋文具になったワケ」PRESIDENT Online 2022年10月
7. 「月額費用を980円→1980円に上げたのに、会員数が2倍に...リクルートの『スタサブ』が実現した奇跡の戦略」PRESIDENT Online 2022年9月
8. 「なぜ山形の観光農園のコロナ禍対応は一時凌ぎでは終わらなかったのか」MAG2 NEWS 2022年9月
9. 「全国の高校の4割にあたる2000校が利用。リクルートの『スタサブ』が起こした教育革命」MAG2 NEWS 2022年8月
10. 「『カップヌードルは高すぎ』を覆した、戦略とビジネスモデルの秀逸さとは」ダイヤモンド・オンライン 2022年7月
11. 「ネスレ"次"の模索が導いた『ネスカフェアンバサダー』という大ヒット」MAG2 NEWS 2022年7月
12. 「マーケター発想の『ありがちな新商品』の限界を壊せ...博報堂がたどり着いた『部族レポート』という新手法」PRESIDENT Online 2022年6月
13. 「まず行動せよ。サントリー創業者の口癖『やってみなはれ』の先見性」MAG2 NEWS 2022年6月
14. 「ビジョン揺るがず。モスバーガーは予測困難なコロナ禍でも右往左往しない訳」MAG2 NEWS 2022年5月
- 15.

#### <学会報告等研究活動>

##### ■講演（招待講演/基調講演）

##### ■報告（学会報告/会議報告）

1. （パネリスト）私にとってのエフェクチュエーション, Effectuation for Everyone! (Effectuation Conference 2023), 早稲田大学リサーチイノベーションセンター, 2023年3月5日
2. （モデレーター）研究・教育・企業実践の最前線, Effectuation for Everyone! (Effectuation Conference 2023), 早稲田大学リサーチイノベーションセンター, 2023年3月5日
3. （発表）イノベーションの活性化には、どのようなマーケティング・リサーチがなぜ必要か, 第13回 エフェクチュエーション研究報告会, オンライン開催, 2022年12月7日

#### <社会活動>

##### ■所属学会

1. 日本商品学会
2. 日本消費者行動研究学会
3. 組織学会
4. 日本商業学会
5. 日本マーケティング学会
6. 日本経営学会

■学会役員

1. 日本消費者行動研究学会理事
2. 日本商事学会理事
3. 日本マーケティング学会理事

■雑誌編集

1. 日本マーケティング学会ジャーナル編集委員
2. 一橋ビジネスレビュー編集委員

■学外営利企業の役員

1. 株式会社碩学舎取締役

## 教授 小林 照義 (Teruyoshi KOBAYASHI)

- ・ 計算社会科学センター/データ分析部門
  - ・ 大学院経済学研究科
- 

### 研究活動

#### <研究業績>

#### 【論文】

##### ■レフェリー付論文

1. “[Unstable diffusion in social networks](#)”  
Teruyoshi Kobayashi, Yoshitaka Ogisu, and Tomokatsu Onaga  
Journal of Economic Dynamics and Control, 146, 104561, January 2023
2. “[Identifying the temporal dynamics of densification and sparsification in human contact networks](#)”  
Shaunette T. Ferguson and Teruyoshi Kobayashi  
EPJ Data Science 11(1), 52, October 2022
3. “[Diffusion dynamics of competing information on networks](#)”  
Teruyoshi Kobayashi  
Physical Review, E 106, 034303, September 2022
4. “Dynamics of diffusion on monoplex and multiplex networks: a message-passing approach”  
Teruyoshi Kobayashi, Tomokatsu Onaga  
Economic Theory 76(1) 251-287. 2022年8月29日

##### ■掲載論文（査読なし）

1. “[Social contagion induced by uncertain information](#)”  
Teruyoshi Kobayashi  
arXiv 2022年12月

#### <学会報告等研究活動>

##### ■講演（招待講演/基調講演）

1. （招待講演）“Regime switching in human contact networks”  
Teruyoshi Kobayashi  
Socioeconomic Networks and Network Science Workshop 2022  
オンライン開催 2022年8月2日
2. (招待講演) 「動的な社会・経済ネットワークにおけるレジーム推移の検出」  
アジア経済シンポジウム 2023年3月1日

#### <社会活動>

##### ■所属学会

1. 日本経済学会
2. 日本金融学会
3. Network Science Society
4. 計算社会科学会

■学会役員

1. 計算社会科学会理事

■雑誌編集・ジャーナル編集

1. PLOS ONE, Academic Editor

## 教授 柴本 昌彦 (Masahiko SHIBAMOTO)

- ・ 計算社会科学センター／データ分析部門
  - ・ 経済経営研究所
- 

### 研究活動

#### <研究業績>

#### 【論文】

##### ■レフェリー付論文

###### □掲載済

1. “[“COVID-19 Infection Spread and Human Mobility,”](#) (with Shoka Hayaki and Yoshitaka Ogisu), *Journal of the Japanese and International Economies*, Volume 64, Article 101195, June 2022

###### □掲載予定論文 (Forthcoming)

1. “Identifying Quantitative and Qualitative Monetary Policy Shocks,” (with Kiyotaka Nakashima and Koji Takahashi), *International Journal of Central Banking*, forthcoming
2. “Japan’s Monetary Policy: A Literature Review and Empirical Assessment,” (with Wataru Takahashi and Takashi Kamihigashi), *Journal of Computational Social Science*, forthcoming

##### ■掲載論文 (査読なし)

###### □掲載論文

1. 「中小企業のSDGsへの取組みの現状と課題」家森信善編著『関西における地域金融面からの事業支援の課題-ポストコロナを見据えた地域金融のあり方-』研究会報告書 (2021年度) アジア太平洋研究所資料 第1章 13-31頁 2022年3月

###### □未掲載論文(DP/WP)

1. “Inflation, Business Cycle, and Monetary Policy: The Role of Inflationary Pressure,” *RIEB Discussion Paper Series* No.DP2023-04, Kobe University, March 2023
2. “Cyclical Activity and Inflation under Secular Stagnation: Empirical Evidence Using Data on Japan’s Lost Decades,” *RIEB Discussion Paper Series* No.DP2022-32, Kobe University, July 2022

#### 【その他】

1. 「時系列分析 (応用編)」『経済学の歩き方 (2023年度版)』神戸大学経済経営学会 147-153頁 2023年3月

#### <学会報告等研究活動>

##### ■講演 (招待講演/基調講演)

1. (講演) 「中小企業経営の課題と展望～ゼロゼロ融資の返済等の課題にどう向き合おうか～」第27回神戸経済経営フォーラム 神戸商工会議所 (オンライン開催) 2023年2月8日

##### ■報告 (学会報告/会議報告)

1. (発表) “Inflation, Business Cycle, and Monetary Policy: The Role of Inflation Pressure,” International Symposium on Monetary Policy 神戸大学 (オンライン開催) 2022年10月21日

##### ■モデレーター (主催/司会/座長/討論者/パネリスト)

1. (司会) CCSS International Workshop on Computational Social Science 神戸大学 (オンライン開催) 2022年11月30日



2. (座長)「中央銀行パネル 長期停滞下での地域金融の機能強化と中央銀行の役割」日本金融学会2022年度秋季全国大会 (オンライン開催) 2022年11月26日
3. (討論者)“People in Japan were Habituated to the COVID-19 Pandemic,” (高阪勇毅、大竹 文雄、Tsutsui-Kimura Iku、筒井義郎) 日本経済学会2022年度秋季大会 慶応義塾大学 (オンライン開催) 2022年10月15日

■記事(解説/コメント/インタビュー記事/寄稿)

1. 専門家意見『中小企業経営者アンケート「大同生命サーベイ」2022年9月度調査レポート～「サステナビリティ経営」に取り組む企業の9割が効果・メリットを実感～』11頁 2022年10月
2. 「巻頭言 大同生命サーベイ2021年度年間レポート発刊に寄せて」(海野晋悟との共著)『中小企業経営者アンケート「大同生命サーベイ」2021年度 年間レポート～長引くコロナ禍の影響と新しい時代への対応～』2頁 2022年7月

<社会活動>

■所属学会

1. 日本経済学会
2. 日本金融学会
3. American Economic Association
4. Western Economic Association International
5. Royal Economic Society
6. Econometric Society
7. International Association for Applied Econometrics

■プログラム委員

1. 日本金融学会 2022 年度秋季大会大会運営委員・プログラム委員・中央銀行パネルセッション副座長

■雑誌編集

- *Journal of the Japanese and International Economies (2)*
- *Asian Economic Journal*
- *Japanese Economic Review (2)*
- *Japan and the World Economy*
- *Asia-Pacific Financial Markets*
- *Macroeconomic Dynamics*
- *Review of Development Economics*

■学外委員その他

- アジア太平洋研究所 リサーチャー (2019 年度、2020 年度、2021 年度、2022 年度)

<国際交流活動>

1. 「Inflation Shocks, Expectations and Monetary Policy」Kenneth N. Kuttner (Williams College) との共同研究

## 教授 谷口 隆晴 (Takaharu YAGUCHI)

- ・ 計算社会科学センター/データ分析部門
  - ・ 大学院システム情報学研究科
- 

### 研究活動

#### <研究業績>

#### 【論文】

##### ■レフェリー付論文 (査読あり)

1. “Variational Integrator for Hamiltonian Neural Networks”  
Yuhan Chen, Takashi Matsubara, Takaharu Yaguchi  
Proceedings of the 2022 International Symposium on Nonlinear Theory and its Applications (NOLTA2022) 25-28 2022年12月
2. “[Learning GENERIC Systems Using Neural Symplectic Forms](#)”  
Baige Xu, Yuhan Chen, Takashi Matsubara, and Takaharu Yaguchi  
Proceedings of the 2022 International Symposium on Nonlinear Theory and its Applications (NOLTA2022) 29-32 2022年12月
3. “[Secure Communication Systems Based on Synchronization of Chaotic Vibration of Wave Equation](#)”  
Hideki Sano, Masashi Wakaiki, and Takaharu Yaguchi  
Journal of Signal Processing 26(6) 147-158 2022年 11月
4. “[KAM Theory Meets Statistical Learning Theory: Hamiltonian Neural Networks with Non-Zero Training Loss](#)”  
Yuhan Chen, Takashi Matsubara, Takaharu Yaguchi  
Proceedings of the AAAI Conference on Artificial Intelligence 36(6) 6322-6332 2022年6月
5. 「[射影法を用いて系の第一積分を発見し保存するNeural ODE](#)」  
松原崇, 谷口隆晴  
電子情報通信学会技術研究報告 122(90) 47-52 2022年6月
6. “[Imbalance-Aware Learning for Deep Physics Modeling](#)”  
Takahito Yoshida, Takaharu Yaguchi, and Takashi Matsubara  
ICLR2022 Workshop on AI for Earth and Space Science (ai4earth) 2022年4月

##### ■掲載論文 (査読なし)

###### □掲載論文

1. 「[幾何学的深層科学技術計算-深層学習による物理モデリング・シミュレーション-](#)」  
松原崇, 陳 鈺涵, 谷口 隆晴  
応用物理 91(10) 629-633 2022年10月

#### 【その他】

1. [書評「田中剛平・中根了昌・廣瀬明著『リザーバーコンピューティング』\(森北出版2021年\)」](#)  
谷口隆晴  
システム/制御/情報 66(9) 371 2022年9月

## ＜学会報告等研究活動＞

### ■講演（招待講演/基調講演）

1. （招待講演）複数の研究分野の連携と数理科学  
谷口隆晴  
日本応用数理学会2022年度年会，北海道大学／オンライン開催 2022年9月9日

### ■報告（学会報告/会議報告）

1. （学会報告）有限要素法と有限要素外積解析の基礎  
谷口隆晴  
幾何学的離散力学の産業への応用に向けた数理科学の基礎  
九州大学 伊都キャンパス／オンライン開催 2023年1月22日
2. （学会報告）有限要素法と有限要素外積解析の基礎  
谷口隆晴  
幾何学的離散力学の産業への応用に向けた数理科学の基礎  
九州大学 伊都キャンパス／オンライン開催 2023年1月21日
3. （学会報告）ニューラルシンプレクティック形式とそれに対する変分的数値積分法  
谷口隆晴  
第13回 東京大学数理情報学談話会 2022年12月21日
4. （学会報告）GENERICシステムに対する構造保存型深層物理モデル  
徐百歌，陳鈺涵，松原崇，谷口隆晴  
日本応用数理学会2022年度年会，北海道大学／オンライン開催 2022年9月8日
5. （学会報告）深層学習を用いてデータから力学系の第一積分を発見し保存するモデル化法  
松原崇，谷口隆晴  
日本応用数理学会2022年度年会，北海道大学／オンライン開催 2022年9月8日
6. （学会報告）交流アンケートデータからのネットワーク特徴量推定について  
徐百歌，谷口隆晴，増本康平，原田和弘，近藤徳彦，岡田修一  
日本応用数理学会2022年度年会，北海道大学／オンライン開催 2022年9月8日
7. （学会報告）神経ネットワーク動画像からのモデリングの試み  
安田諒子，松原崇，谷口隆晴  
日本数学会2022年度秋季総合分科会，北海道大学 2022年9月16日
8. （学会報告）一般化DissipativeSymODENのGENERIC形式  
徐百歌，陳鈺涵，松原崇，谷口隆晴  
日本数学会2022年度秋季総合分科会，北海道大学 2022年9月16日
9. （学会報告）ニューラルシンプレクティック形式と変分原理の両立性について  
陳鈺涵，松原崇，谷口隆晴  
日本数学会2022年度秋季総合分科会，北海道大学 2022年9月16日
10. （学会報告）Neural symplectic form and coordinate-free learning of Hamiltonian dynamics  
Yuhan Chen, Takashi Matsubara, and Takaharu Yaguchi  
International Conference on Scientific Computation and Differential Equations (SciCADE)  
University of Iceland, Reykjavík, July 25, 2022
11. （学会報告）Theoretical analysis of approximation properties of Hamiltonian neural networks  
Yuhan Chen, Takashi Matsubara, and Takaharu Yaguchi  
International Conference on Scientific Computation and Differential Equations (SciCADE)  
University of Iceland, Reykjavík, July 25, 2022

12. (学会報告) Learning GENERIC Systems Using Neural Symplectic Forms  
Yuhan Chen, Takashi Matsubara, and Takaharu Yaguchi  
International Conference on Scientific Computation and Differential Equations (SciCADE)  
University of Iceland, Reykjavík, July 25, 2022
13. (学会報告) 射影法を用いて系の第一積分を発見し保存するNeural ODE  
松原崇, 谷口隆晴  
電子情報通信学会 第46回 情報論的学習理論と機械学習 (IBISML) 研究会  
琉球大学50周年記念館/オンライン開催 2022年6月27日
14. (学会報告) アンバランスを考慮した深層学習による物理系の学習  
吉田崇人, 谷口隆晴, 松原崇  
2022年度 人工知能学会全国大会 (第36回)  
国立京都国際会館/オンライン開催 2022年6月15日
15. (学会報告) Imbalance-aware lossを用いた深層学習による物理系の学習  
吉田崇人, 谷口隆晴, 松原崇  
2022年 電子情報通信学会 NOLTAソサイエティ大会  
大阪大学豊中キャンパス 2022年6月11日
16. (学会報告) 積分を組み込んだニューラルネットワークを用いた, 力学系の運動予測  
丸野恵蔵, 高石武史, 谷口隆晴  
日本計算工学会 第27回計算工学講演会  
にぎわい交流会AU (秋田市) /オンライン開催 2022年6月3日
17. (学会報告) Neural Symplectic 形式によるGENERICシステムの学習  
徐百歌, 陳鈺涵, 松原崇, 谷口隆晴  
日本計算工学会 第27回計算工学講演会  
にぎわい交流会AU (秋田市) /オンライン開催 2022年6月3日

## <社会活動>

### ■所属学会

1. Institute of Electrical and Electronics Engineers
2. 情報処理学会
3. Society for Industrial and Applied Mathematics
4. American Institute of Aeronautics and Astronautics
5. 日本数学会
6. 日本応用数理学会

### ■学外委員

1. 2021年4月 - 現在, MDPI Mathematics Topic Editor
2. 2019年10月 - 現在, 日本数学会応用数学分科会委員会委員
3. 2015年05月 - 現在, 日本学術会議, 計算音響学小委員会 委員

## <受賞>

2021年9月8日 日本応用数理学会論文賞 理論部門

## 特命教授 西村 和雄 (Kazuo NISHIMURA)

- ・ 計算社会科学センター／データ分析部門
  - ・ 経済経営研究所
- 

### 研究活動

#### <研究業績>

#### 【論文】

##### ■レフェリー付論文

1. “[Flying or trapped?](#),” (with Yunfang Hu, Takuma Kunieda, and Ping Wang), *Economic Theory*, Vol.75, pp.341-388, February 2023
2. “[Existence of an optimal path in a continuous-time nonconcave Ramsey model.](#)” (with Ken-Ichi Akao, Hitoshi Ishii, and Takashi Kamihigashi), *Pure and Applied Functional Analysis*, Vol.7, No.6, pp.1939-1952, 2022
3. “[Indeterminacy in a Model with Production Externality and Inferiority in Consumption.](#)” (with Kazumichi Iwasa), *International Journal of Economic Theory*, Vol.18, Issue 4, pp.607-623, December 2022
4. “[Japan’s R&D capabilities have been decimated by reduced](#) class hours for science and math subjects,” (with Dai Miyamoto and Tadashi Yagi), *Humanities and Social Sciences Communications*, Vol.9, Article 210, June 2022

##### □未掲載論文(DP/WP)

1. “A Two Country Model of Trade with International Borrowing and Lending,” (with Kazumichi Iwasa), *RIEB Discussion Paper Series No.2023-08*, March 2023
2. 「褒め方、叱り方が子どもの将来に与える影響－日本における実証研究」 *RIETI Discussion Paper 22-J-037* 2022年10月

#### <学会報告等研究活動>

##### ■記事（解説/コメント/インタビュー記事/寄稿）

1. 「衰退した研究開発力復活させよ」『産経新聞』（2022年12月14日付「正論」）

#### <社会活動>

##### ■所属学会

1. Society for the Advancement of Economic Theory (SAET)  
2020～ Economic Theory Fellow
2. International Engineering and Technology Institute  
2015～ Distinguished Fellow
3. Econometric Society  
1992～Fellow of the Econometric Society
4. 日本学士院会員
5. 日本経済学会（理論計量経済学会）
6. 日本学術会議（連携会員）
7. 日本数学協会

#### ■学会役員

1. 日本経済学教育協会（経済学検定試験実施）2002～会長
2. 国際教育学会 2006～会長

#### ■雑誌編集

- *Taiwan Journal of Applied Economics*, Member of the Honorary International Editorial Advisory Board, 2017-
- *Neuroscience Communications*, Smart Science & Technology, Member of Editorial Board, 2015-
- *Advances in Dynamical Systems and Applications*, Research India Publications, Member of Editorial Board, 2006-
- *Advances of Mathematical Economics*, Springer-Verlag, Member of Editorial Board, 1998-
- *Annals of Financial Economics*, World Scientific, Member of the Advisory Board, August 2013-
- *Brazilian Journal of Business Economics*, Catholic University of Brasilia, Member of Advisory Board, February 2012-
- *Journal of Reviews on Global Economics*, Lifescience Global, Member of Editorial Board, 2012-
- *Journal of Risk and Financial Management*, Multidisciplinary Digital Publishing Institute, Member of the Advisory Board, August 2013-
- *Journal of Macroeconomics*, Elsevier, Member of Editorial Board, 2003-
- *Journal of Economic Development*, Chung Ang University, Member of Editorial Board, 1997-
- *Journal of Difference Equations and Applications*, Gordon and Breach Publishers, Member of Editorial Board since 1997
- *Journal of Informatics and Data Mining*, Insight Medical Publishing, Member of Editorial Board, 2015-
- *Journal of Health & Medical Economics*, Insight Medical Publishing, Member of Editorial Board, 2015-
- *Journal of Integrated Creative Studies*, Kyoto University, Member of Editorial Board, 2015-
- *International Journal of Dynamical Systems and Differential Equations*, Nova Science Publishers, Member of Editorial Board, 2006-
- *Pacific Economic Review*, Wiley-Blackwell, Member of Editorial Board, 2003-
- *Review of International Economics*, Wiley-Blackwell, Member of Editorial Board, 1997-
- *Seoul Journal of Economics*, Seoul University, Member of Editorial Board, 1996-
- *Studies in Nonlinear Dynamics and Econometrics*, MIT Press, Member of Editorial Board 1995-
- *Theoretical Economics Letters*, Scientific Research Publishing, Member of the Editorial Board, April 2011-

#### ■学外委員その他

- 2017～ 大阪市教育委員会 顧問
- 2016～ 公益財団法人KIER経済研究財団 監事
- 2013～ 総合診断医療研究会 名誉顧問
- 2012～ 高等教育国際基準協会 名誉顧問
- 2009～2022 東京大学大学院経済学研究科附属日本経済国際共同研究センター顧問
- 2005～ NPO これからの教育を考える会 理事

#### ■その他

- ・「褒め方・叱り方が将来に影響」について紹介 NHK神戸『Live Loveひょうご』（2022年11月10日、18：30～19：00放送）

- ・「褒め方・叱り方が将来に影響」について紹介 NHK神戸『兵庫ニュース845』（2022年11月10日、20：45～21：00放送）
- ・「『偉いね』と『頑張ったね』自立心高める“褒め方”はどっち？子どもの将来に与える影響を調査 神戸大・同志社大の研究チーム」について紹介 朝日放送『newsおかえり』（2022年10月27日、15：45～19：00放送）
- ・「最新調査結果上国際期刊：減少初中理数科目课时影响大，明显导致科研能力下降」科学技術振興機構アジア・太平洋総合研究センター 2022年8月29日
- ・“Huge impact of reduced class hours for math and science in junior high school: new survey results in international journal show decline in research capabilities,” Science Japan by Japan Society and Technology Agency, August 31, 2022

#### ■メディア掲載など

- ・日経xwoman インタビュー記事「罰や褒美に頼らない褒め方・叱り方は幸福度を高める」（2022年12月26日付）
- ・毎日新聞 紹介記事「子どもの叱り方：子を叱るなら『次は頑張ろうね』 成人後影響、1300人調査 神戸大・同志社大」（2022年11月11日付夕刊、7頁）
- ・神戸新聞 紹介記事「子の叱り方『次は頑張ろうね』成人後の自立心などに好影響」（2022年10月27日付朝刊、26頁）
- ・日本経済新聞 紹介記事「叱り方は『次、頑張ろう』で子どもの自立心に好影響 神戸大など分析」（2022年10月27日付夕刊、11頁）
- ・時事ドットコムニュース 紹介記事「子への叱り方『次は頑張ろうね』自立心に好影響－神戸・同志社両大調査」（2022年10月31日付）
- ・大学ジャーナルONLINE 紹介記事「『頑張ったね』と褒め『次は頑張ろうね』と叱るのが子の将来にプラス、神戸大学と同志社大学が調査」（2022年10月31日付）
- ・FNNプライムオンライン 紹介記事「『頑張ったね』と褒め、『次は頑張ろうね』と叱るのが良い？子ども時代の“褒め方・叱り方”が将来に影響…その理由を聞いた」（2022年11月6日付）
- ・公益財団法人ニッポンドットコム「国際誌に掲載された最新の研究成果：中学校の理科・数学の授業時間数削減は大きな影響を与え、研究能力の明確な低下につながる（原題は中国語）」（2022年9月19日付）
- ・Science Japan, Asia and Pacific Research Center (APRC), Japan Science and Technology Agency (JST) 紹介記事 “Huge impact of reduced class hours for math and science in junior high school: new survey results in international journal show decline in research capabilities”, August 2022
- ・現代化学 紹介記事「化学かわらばん 授業時間減少の影響」（2022年9月号No.618）78頁
- ・朝日新聞DIGITAL 紹介記事「『中学の理数授業少ない世代、特許出願数少ない』研究チームが警鐘」（2022年7月2日付）
- ・朝日新聞 紹介記事「中学で理数授業減→特許出願減 神戸大などのチーム、発表」（2022年7月2日付夕刊、7頁）
- ・神戸新聞 紹介記事「中学理数科授業減 特許出願少なく」（2022年7月2日付夕刊、6頁）
- ・四国新聞 紹介記事「理数科授業減→特許も減 神戸大など分析」（2022年7月2日付朝刊、18頁）

- ・岩手日報 紹介記事「中学理数科授業減で特許出願数減る傾向 『指導要領変更が必要』神戸大などのグループ分析」（2022年7月2日付朝刊、23頁）
- ・プレジデントFamily 研究データの掲載「勉強すると得するの？データで見る『学歴と幸せ』の現実」第3章「学歴や年収より大事なこと」（2022年夏号）52頁

#### <国際交流活動>

1. 経済発展と技術導入に関する研究  
ワシントン大学Ping Wang、神戸大学 胡云芳 関西学院大学 國枝卓真  
(2020年度～)
2. 経済変動のメカニズムの分析  
Aix-Marseille School of Economics, Alain Venditti (2013年度～)
3. 意識の代数的定式化  
California Polytechnic State University, San Luis Obispo 加藤五郎 (2013年度～)



## 准教授 加藤 諒 (Ryo KATO)

- ・ 計算社会科学研究センター／データ分析部門
  - ・ 経済経営研究所
- 

### 研究活動

#### <学会報告等研究活動>

1. 「店舗内タイムプレッシャーと快楽性製品カテゴリーの購買行動」（共著者：星野 崇宏）日本行動計量学会 第50回大会 沖縄県市町村自治会館 2022年8月
2. 「現在地への親近性がジオターゲティング広告の効率性に与える影響」（共著者：星野崇宏, 森脇大輔, Shintaro Okazaki）日本マーケティング・サイエンス学会 第111回研究大会 関西学院大学 2022年6月

#### <社会活動>

##### ■所属学会

1. 日本マーケティング・サイエンス学会
2. 日本行動計量学会

##### ■プログラム委員

2021.2022年度 統計関連学会連合大会 プログラム委員

##### ■学外委員その他

総務省統計局 個人企業経済統計欠測値補完に関する意見交換会 構成員

## 特命助教    ロミチ, イヴァン (Ivan ROMIC)

- ・ 計算社会科学センター/データ分析部門
  - ・ 経済経営研究所
- 

### 研究活動

#### <学会報告等研究活動>

##### ■講演 (招待講演/基調講演/発表/口頭発表)

1. “Workshop on Experimental Design,” Summer School in Behavioral Economics, Faculty of Economics, Business and Tourism, University of Split, Croatia, June 27 - July 1, 2022
2. “Freedom of Choice in Cooperation, Trust, and Ultimatum Games,” Summer School in Behavioral Economics, Faculty of Economics, Business and Tourism, University of Split, Croatia, June 27 - July 1, 2022

##### ■報告 (学会報告/会議報告)

1. (司会) “Session 2,” CCSS School on Computational Social Science: Agent-Based Models (ABM) in Economics, (Online), January 20, 2023
2. (報告) “Freedom of Choice in Economic Games,” CCSS International Workshop on Computational Social Science, Kobe University, November 30, 2022

#### <社会活動>

##### ■所属学会

- アメリカ経済学会 (American Economic Association)
- アメリカンナチュラリスト協会 (American Society of Naturalists)

##### ■学術論文レフリー

- Journal of Business Research
- Chaos, Solitons & Fractals
- Complexity
- Integrative Biology
- Journal of Computational Social Science
- Regional Studies, Regional Science

#### <国際交流活動>

- Zvonimir Basic, Max Planck Institute
- Angelo Romano, Leiden University
- Zhen Wang, Northwestern Polytechnical University

## 特命助教 陳 訓泉 (Xunquan CHEN)

- ・ 計算社会科学センター／データ分析
  - ・ 経済経営研究所
- 

### 研究活動

#### <研究業績>

#### 【論文】

##### ■レフェリー付論文

##### □掲載済

1. “[Convolutional Neural Networks Inference Memory Optimization with Receptive Field-Based Input Tiling](#),” (co-authored with Weihao Zhuang, Tristan Hascoet, Ryoichi Takashima, Tetsuya Takiguchi, and Yasuo Ariki), *APSIPA Transactions on Signal and Information Processing*, Vol.12, Issue 1, pp.1-20, January 2023
2. “[Binary Attribute Embeddings for Zero-Shot Sound Event Classification](#),” (co-authored with Yihan Lin, Ryoichi Takashima, and Tetsuya Takiguchi), *2022 IEEE 11th Global Conference on Consumer Electronics (GCCE)*, pp.13-14, October 2022
3. “[Direction of Arrival Estimation for Indoor Environment Based on Acoustic Composition Model with a Single Microphone](#),” (co-authored with Xingchen Guo, Xuexin Xu, Jinhui Chen, Rong Jia, Zhihong Zhang, Tetsuya Takiguchi, and Edwin R. Hancock), *Pattern Recognition*, Vol.129, 108715, September 2022
4. “[Phoneme-Guided Dysarthric Speech Conversion with Non-parallel Data by Joint Training](#),” (co-authored with Atsuki Oshiro, Jinhui Chen, Ryoichi Takashima, and Tetsuya Takiguchi), *Signal, Image and Video Processing*, Vol.16, pp.1641-1648, September 2022

##### □掲載予定論文 (Forthcoming)

1. “[Speaker-Independent Emotional Voice Conversion via Disentangled Representations](#),” (co-authored with Xuexin Xu, Jinhui Chen, Zhihong Zhang, Tetsuya Takiguchi, and Edwin R. Hancock), *IEEE Transactions on Multimedia*, forthcoming
2. “[Zero-shot Sound Event Classification Using a Sound Attribute Vector with Global and Local Feature Learning](#),” (co-authored with Yihan Lin, Ryoichi Takashima, and Tetsuya Takiguchi), *IEEE ICASSP 2023*, forthcoming

#### 【その他】

#### <学会報告等研究活動>

##### ■報告 (学会報告/会議報告)

1. (報告) “Emotional Voice Conversion with a Novel Content-Style Fusion Block,” (陳金輝・高島遼一・滝口哲也との共同報告) 日本音響学会 2023年春季研究発表会 (オンライン開催) 2023年3月15日
2. (報告) “Towards Natural Emotional Voice Conversion with Novel Attention Module,” (陳金輝・高島遼一・滝口哲也との共同報告) 日本音響学会 2022年秋季研究発表会 北海道科学大学 2022年9月15日
3. (報告) 「少数データを用いたGANの適応的クロスドメイン画像生成」 (大城明津輝・陳金輝・滝口哲也との共同報告) MIRU2022 第25回画像の認識・理解シンポジウム (MIRU) 姫路市文化コンベンションセンターアクリエひめじ (オンライン開催) 2022年7月26日

**<社会活動>**

■所属学会

- ・日本音響学会（学生会員）

## 助手 シャディ, サラマ (Shady SALAMA)

- ・ 計算社会科学センター/データ分析部門
  - ・ 経済経営研究所
- 

### 研究活動

#### <研究業績>

#### 【論文】

##### ■レフェリー付論文

##### □掲載済

1. [“Feature Selection Approach for Evolving Reactive Scheduling Policies for Dynamic Job Shop Scheduling Problem Using Gene Expression Programming,”](#) (co-authored with Toshiya Kaihara, Nobutada Fujii, and Daisuke Kokuryo), *International Journal of Production Research*, pp.1-24, June 2022
2. [“Multi-Objective Approach with a Distance Metric in Genetic Programming for Job Shop Scheduling,”](#) (co-authored with Toshiya Kaihara, Nobutada Fujii, and Daisuke Kokuryo), *International Journal of Automation Technology*, 16(3), pp.296-308, May 2022

##### □掲載予定論文 (Forthcoming)

1. [“Dispatching Rules Selection Mechanism Using Support Vector Machine for Genetic Programming in Job Shop Scheduling,”](#) (co-authored with Toshiya Kaihara, Nobutada Fujii, and Daisuke Kokuryo), *IFAC-PapersOnLine*, forthcoming

#### <学会報告等研究活動>

##### ■報告 (学会報告/会議報告)

1. (報告) “Applications of Text Mining and Agent-based Simulation Modeling of COVID-19 Pandemic,” CCSS International Workshop on Computational Social Science, Kobe University (Online), November 30, 2022
2. (報告) “SURROGATE ASSISTED GENE EXPRESSION PROGRAMMING FOR AUTOMATED DESIGN OF JOB SHOP SCHEDULING RULES,” (co-authored with Toshiya Kaihara, Nobutada Fujii, and Daisuke Kokuryo), International Symposium on Flexible Automation 2022 (ISFA2022), Keio University, July 6, 2022

##### ■モデレーター (主催/司会/座長/討論者/パネリスト)

1. (司会) “Session 1,” CCSS School on Computational Social Science: Agent-Based Models (ABM) in Economics, (Online), January 20, 2023

## 准教授 高槻 泰郎 (Yasuo TAKATSUKI)

- ・ 計算社会科学センター／データベース部門
  - ・ 経済経営研究所
- 

### 研究活動

#### <研究業績>

##### 【著書】

1. “The Dojima Rice Exchange -From Rice Trading to Index Futures Trading in Edo-Period Japan-,” (translated by Louisa Rubinfiem), Japan Publishing Industry Foundation for Culture, 255pp., May 2022

##### 【編著書】

1. 『豪商の金融史—廣岡家文書から解き明かす金融イノベーション—』慶應義塾大学出版会 336頁2022年7月

##### 【著書（分担執筆）】

1. 「加島屋本宅再現模型の制作—くらしの演出」（岩間香、服部麻衣、増井正哉、谷直樹、松本正己、吉田一正との共著）大阪市立住まいのミュージアム編『大阪市立住まいのミュージアム 研究紀要・館報』大阪市立住まいのミュージアム 第20号 2022年11月 35-50頁
2. 「加島屋本宅再現模型の制作—建物の設計」（谷直樹、松本正己、増井正哉、岩間香、服部麻衣、吉田一正との共著）大阪市立住まいのミュージアム編『大阪市立住まいのミュージアム 研究紀要・館報』大阪市立住まいのミュージアム 第20号 2022年11月 23-34頁
3. 「米市場—米はどのように売買されていたのか—」岩城卓二・上島享・河西秀哉・塩出浩之・谷川穰・告井幸男編『論点・日本史学』ミネルヴァ書房 2022年8月 182-183頁
4. 「商都大坂の金融市場と加島屋」大阪市立住まいのミュージアム編『商都大坂の豪商・加島屋—あきない町家くらし—』大同生命保険株式会社 2022年7月 18-19頁
5. 「忘れられた豪商、発見される」大阪市立住まいのミュージアム編『商都大坂の豪商・加島屋—あきない町家くらし—』大同生命保険株式会社 2022年7月 4-17頁

##### 【論文】

#### ■掲載論文（査読あり）

##### □掲載予定

1. “[The Role of Information in the Rice Exchange: YAMAGATA Bantō’s Great Knowledge \(1806\)](#),” (with Taro Hisamatsu), *European Journal of the History of Economic Thought*, forthcoming

#### ■掲載論文

1. 「加島屋久右衛門の創業と成長—業態変化に着目して—」『経営史学』 第57巻第1号 2022年6月 53-57頁

#### ■未掲載論文(DP/WP)

1. “Efficient Market Theorists in the Early Nineteenth Century: The Earl of Lauderdale (1759-1839) and Yamagata Bantō (1748-1821),” (with Taro Hisamatsu), *RIEB Discussion Paper Series*, No.DP2022-24, Kobe University, May 2022

### 【その他】

1. 「経済学を使って歴史を分析する」『経済学の歩き方（2023年度版）』神戸大学経済経営学会2023年3月 110-115頁
2. 「大坂豪商・加島屋久右衛門と福澤百助」『三田評論』 第1271号 2022年11月 5-7頁
3. 「江戸時代の商人が生んだ『投機』のための市場の歴史」『週刊東洋経済』 第7077号 2022年10月 84-85頁
4. 「シニアシチズンサイエンスとしての六史会」『凌霜』 第435号 2022年10月 42-43頁
5. 「江戸城に忍び込んだ海賊の話」『RIEBニュースレター』コラム No.236 2022年7月
6. 「相場師だけじゃない—庶民が気軽に投資をしていた堂島米市場—」『くらし塾きんゆう塾』 第60巻 2022年4月 13-15頁

### <学会報告等研究活動>

#### ■講演（招待講演/基調講演）

1. （招待講演）企業家研究フォーラム20周年シンポジウム 大阪産業創造館 2023年3月11日 「近世日本の商家文書を活用するために」
2. （招待講演）黒正塾 第19回秋季学術講演会「中世・近世・日本の金融」 大阪経済大学 2022年11月12日 「江戸時代の大坂はなぜ金融の街となったのか」（オンライン開催）
3. （招待講演）くらしとお金に役立つ講演会 大阪銀行協会 2022年9月30日 「江戸時代に学ぶお金と暮らし—堂島米市場と江戸の資産運用—」（オンライン開催）
4. （招待講演）大同生命120周年記念事業記者発表会 大同生命保険株式会社大阪本社 2022年7月13日 「廣岡家研究の今—110周年から120周年にかけての進捗—」

#### ■報告（学会報告/会議報告）

1. （セミナー報告）MEW研究会 関西大学 2023年3月25日 「豪商の金融史」（結城武延との共同報告）（オンライン開催）

#### ■モデレーター（主催/司会/座長/討論者/パネリスト）

1. （座長）日本経済学会2022年度春季大会 横浜国立大学 2022年5月29日 「企画セッション 歴史的データを使った研究とは（日本学術会議・経済学委員会 数量的経済・政策分析分科会主催チュートリアルセッション）」（オンライン開催）

### <社会活動>

#### ■取材協力

1. 朝日新聞（山口朝刊）、「長州藩の財政 モノ言う豪商 “メインバンク” 加島屋の史料 公開へ」、2023年2月8日付

#### ■所属学会

1. 日本学術会議
2. 政治経済学・経済史学会

#### ■学外委員その他 編集委員

- ・政治経済学・経済史学会（2014年12月1日～）
- ・日本経済史研究所（2019年6月1～）

学外委員

- ・日本学術会議連携会員（2017年10月1日～）
- ・日本学術会議若手アカデミー（2017年10月1日～）

<国際交流活動>

「前近代経済における公共投資の実施形態に関する清朝中国と徳川日本の比較研究」  
SNG Tuan Hwee（シンガポール国立大学）と共同研究



## 教授 島村 靖治 (Yasuharu SHIMAMURA)

- ・ 計算社会科学センター/データベース部門
  - ・ 大学院国際協力研究科
- 

### 研究活動

#### <研究業績>

#### 【論文】

##### ■レフェリー付論文（査読あり）

1. “[The Gendered Impact of Rural Road Improvement on Schooling Decisions and Youth Employment in Morocco](#)”  
Yasuharu Shimamura, Satoshi Shimizutani, Eiji Yamada, and Hiroyuki Yamada  
Journal of Development Studies 59(3), pp.413-429, 2023年3月
2. “[Do Orphaned Girls Spend More Time on Water Collection? Evidence from Rural Zambia](#)”  
Yasuharu Shimamura, Satoshi Shimizutani, Shimpei Taguchi, and Hiroyuki Yamada  
Vulnerable Children and Youth Studies 18(1), pp.124-130, 2023年1月
3. “[The Impact of Better Access to Improved Water Sources on Health, Schooling, and Water Collection of Girls and Boys in Rural Zambia](#)”  
Yasuharu Shimamura, Satoshi Shimizutani, Shimpei Taguchi, and Hiroyuki Yamada  
Journal of Development Studies 58(9), pp.1750-1771, 2022年9月

##### □掲載予定論文（Forthcoming）

1. “[On the inclusiveness of rural road improvement: Evidence from Morocco](#)”  
Yasuharu Shimamura, Satoshi Shimizutani, Eiji Yamada, and Hiroyuki Yamada  
Review of Development Economics

#### <学会報告等研究活動>

##### ■報告（学会報告/会議報告）

1. （発表）「[ベトナム中部の村落医療施設における医療従事者の利他性の分析](#)」  
国際開発学会第33回全国大会，明治大学，2022年12月3日
2. （招待講演）“[The Gendered Impact of Rural Road Improvement on Schooling Decisions and Youth Employment in Morocco](#)”  
JADE/GRIPS Development Economics Workshops, 2022年5月18日

#### <社会活動>

##### ■所属学会

1. 開発経済学会
2. 日本国際保健医療学会
3. 国際開発学会
4. 日本経済学会

#### <国際交流活動>

- ・ JICA（国際協力機構）研究所との共同研究  
「ミャンマーにおける都市給水事業に関する実証研究」をアジア工科大学院と共同で実施。
- ・ JICA（国際協力機構）研究所との共同研究  
「モロッコにおける地方道路整備事業に関する実証研究」を慶応義塾大学と共同で実施。
- ・ JICA（国際協力機構）研究所との共同研究

「ザンビアにおける深井戸建設事業に関する実証研究」を慶応義塾大学と共同で実施。

・ 科研費による共同研究

「新興国におけるナッジ活用と大規模データとの結合による政策評価手法の探求」をベトナム・フエ農林大学、インドネシア・ガジヤマダ大学と共同で実施。

・ 科研費による共同研究

「インドシナ半島におけるプライマリ・ヘルスケア・システムの国際比較研究」をベトナム・フエ医科薬科大学、カンボジア・国立公衆衛生院、ラオス・国立感染症研究所と共同で実施。

## 特命講師 小代 薫 (Kaoru KOSHIRO)

- ・ 計算社会科学センター／データベース部門
  - ・ 経済経営研究所
- 

### 研究活動

#### <研究業績>

【その他】

1. 「異分野共創でパラダイムのシフトを導くー防災減災の国際連続ワークショップ『MIRAI BOSAI』の取り組み」『月刊フェスク』2022年7月号 62-66頁 2022年7月

#### <学会報告等研究活動>

##### ■講演（招待講演/基調講演）

1. （司会）「未来防災会議DAY2 異分野共創ディスカッション」防災減災の国際連続ワークショップ KOBE PEER WORKSHOP “MIRAI BOSAI 2023” 神戸大学百年記念館（オンライン開催） 2023年3月
2. （企画運営 プロデューサー/ディレクター）「防災減災の国際連続ワークショップ KOBE PEER WORKSHOP “MIRAI BOSAI 2023”」 神戸大学百年記念館（オンライン開催） 2023年3月
3. （パネリスト）「未来の豊中市のまちづくりについて」とよなか公民学連携フォーラム2022 住まうまち 豊中～今考える、時代を越えるその魅力～ 豊中市立文化芸術センター（オンライン開催） 2022年12月
4. （基調講演）「豊中の多様な郊外生活の魅力や特徴について」とよなか公民学連携フォーラム2022 住まうまち 豊中～今考える、時代を越えるその魅力～ 豊中市立文化芸術センター（オンライン開催） 2022年12月
5. （講演）“History of Kobe,” 10th ISHA International Symposium on the History of Anesthesia, Kobe International Conference Center 2022年6月
6. （講演）「神戸の歴史と故坂本勝比古先生のご業績」NPO法人神戸外国人居留地研究会 2022年春の例会・総会 神戸女子大学 2022年5月

#### <社会活動>

##### ■所属学会

1. 日本建築学会 正会員
2. 応用地域学会 正会員

##### ■雑誌編集

- ・ 学術論文レフリー  
『日本建築学会計画系論文集』

##### ■学外委員その他

- ・ こうべ北野町山本通伝統的建造物保存会 顧問
- ・ 神戸布引おんたき茶屋保存会 代表（「実行委員長」）
- ・ NPO 法人 UnknownKobe 副理事長
- ・ アーバンデザインセンター神戸078(UDC078) 理事
- ・ 兵庫県建築士会 一級建築士
- ・ 新修神戸市史「生活文化編」 執筆委員

##### ■その他

- ・ 社会貢献事業  
認定「神戸布引おんたき茶屋 布引雄滝を望む茶屋建築・擬岩・擬木」『神戸歴史遺産』（神戸布引おんたき茶屋保存会（代表：小代薫））2023年1月

・メディア掲載など

「神戸歴史遺産に5件 市認定 布引おんたき茶屋など」『毎日新聞』（2023年2月6日付朝刊、19頁）

「神戸歴史遺産5件認定 江戸、昭和期の建造物など」『神戸新聞』（2023年2月6日付朝刊、21頁）

「<てくてく神戸 布引編（10）>公園制度の契機に 官有林の活用に道筋」『神戸新聞』（2022年12月19日付朝刊、25頁）

「<てくてく神戸 布引編（9）>貿易商らでつくる民間企業『花園社』 行楽地として整備」『神戸新聞』（2022年12月5日付朝刊、23頁）

「<てくてく神戸 布引編（4）>擬木の手すり 大正期製造か 登山道ずらり」『神戸新聞』（2022年11月2日付朝刊、23頁）

「<てくてく神戸 布引編（3）>老舗茶屋 雄滝の絶景で人気に」『神戸新聞』（2022年10月22日付朝刊、25頁）

「<てくてく神戸 布引編（2）>『去来軒』消えた屋号の謎」『神戸新聞』（2022年10月20日付朝刊、25頁）

「<てくてく神戸 布引編（1）>『遊園地』土産物屋、茶屋にぎわう」『神戸新聞』（2022年10月19日付朝刊、23頁）

「<てくてく神戸 旧居留地編>開港当時の『証人』 十五番館」『神戸新聞』（2022年9月7日付朝刊、21頁）

「<都心・三宮 REBORN 再整備の展望⑤>『実験都市』という心意気で」『神戸新聞』（2022年5月25日付朝刊、24頁）

・その他

テレビ出演「歴史 新たに神戸歴史遺産に認定 神戸布引おんたき茶屋」

サンテレビ「NEWS×情報 キャッチ+」、2023年2月28日（放送）

監修「令和4年度 神戸市文書館 企画展『布引－景勝地から遊園地、テーマ型都市公園へ－』」神戸市文書館 2022年10月

特命講師 田中 克幸 (Katsuyuki TANAKA)

- ・ 計算社会科学センター／データベース部門
  - ・ 経済経営研究所
- 

研究活動

<研究業績>

【論文】

■掲載論文 (査読なし)

□未掲載論文(DP/WP)

1. “Machine Learning: New Tools for Economic Analysis,” (with Takashi Kamihigashi), *RIEB Discussion Paper Series*, No.DP2022-22, Kobe University, April 2022

助教 正田 ヴェラ パオラ レイエス  
(Vera Paola Reyes SHODA)

- ・ 計算社会科学センター／データベース部門
  - ・ 経済経営研究所
- 

研究活動

＜研究業績＞

【論文】

■レフェリー付論文

□掲載済

1. “Let’s play videos in literacy practice: From let’s play to let’s learn,” E-Learning and Digital Media, Vol.19 (5), 515-536. September 2022

■未掲載論文

1. “A Comparison of Professional and Recreational Tennis Players’ Self-presentation on Instagram,” (with Gian Philip R. Antolin, and Angela Chriselle Y. Vaquilar), RIEB Discussion Paper Series, No.DP2023-05, 28pp., March 2023

＜学会報告等研究活動＞

■報告（学会報告/会議報告）

1. （パネリスト）「全体ディスカッション」一般財団法人 山岡記念財団 第7回若者文化シンポジウム「日本とドイツに見る異文化の受容と変容」ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川（オンライン開催） 2023年3月8日
2. （報告）「ソーシャルメディア（Instagram）における日本とドイツの若い女性の自己表現に関する研究」一般財団法人 山岡記念財団 第7回若者文化シンポジウム「日本とドイツに見る異文化の受容と変容」ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川（オンライン開催） 2023年3月8日
3. （報告）“Railway Passenger Traffic Volume and Google Maps Amenities: Investigating the Effects and Relationships Using Machine Learning,” CCSS International Workshop on Computational Social Science, Kobe University (Online), November 2022

＜社会活動＞

■所属学会

1. 特定非営利活動法人全国語学教育学会
2. Association for Computing Machinery (ACM)

## VI. 今後の展望と方針

本センター（CCSS）は、2018年4月に全学基幹研究推進組織として設置されて以降の短期間において、国内外から著名な研究者を招聘し、CCSS School、CCSS Workshop、計算社会科学ワークショップ等の開催を通じ、国内外の研究者コミュニティに貢献するとともに、研究者を目指す学生に対して教育機会を提供してきた。また、独自のリサーチフェロー制度を設立し、現在、国内外17名の著名研究者がリサーチフェローとなっており、研究者コミュニティとの連携強化に努めてきた。さらに、計算社会科学初の国際査読ジャーナルである「Journal of Computational Social Science」の編集を通じ、国際レベルでの計算社会科学の発展に貢献している。これらの活動を通じ、2021年3月の「計算社会科学会」の設立において中心的役割を果たした。本センターは、国内唯一の計算社会科学に特化した研究センターであるだけでなく、計算社会科学における国際的研究拠点として認知されつつある。

国内外における本センターの重要性が今後さらに高まることは確実である中、以下3つの課題があると考えられる。

### 1. 予算の獲得

現在独自の予算がない状態であり、外部資金により運営されている活動が多い。ただし、本センターの設立目的自体が外部資金獲得を視野に入れたものであるため、今後、外部資金獲得へ向けた取り組みをさらに強化していく方針である。

### 2. 学内の他組織との連携

これまで学内他組織との連携により外部資金獲得等の実績をあげてきたが、今後も、連携をさらに強化し、外部資金の獲得等に繋げていく方針である。また、学内外における情報発信も強化し、「計算系・情報系に強い神戸大学」というブランド戦略にも貢献する。

### 3. 若手人材の育成

長期的な人事方針に関しては先端経済経営研究学域の中で議論する必要があるが、特命を含めた任期付若手研究者については、本センターには人材育成の実績がある。今後も、予算も人事ポイントともに状況が厳しい中、外部資金による特命教員等を中心に、若手人材・女性研究者の採用・育成に努めたい。

本センターでは、上記3課題に取り組むとともに、2021年3月に計算社会科学会が設立され、計算社会科学に対する社会的関心が高まりを見せている中、学術的にも社会的にも貢献度の高い研究もさらに強化していく方針である。